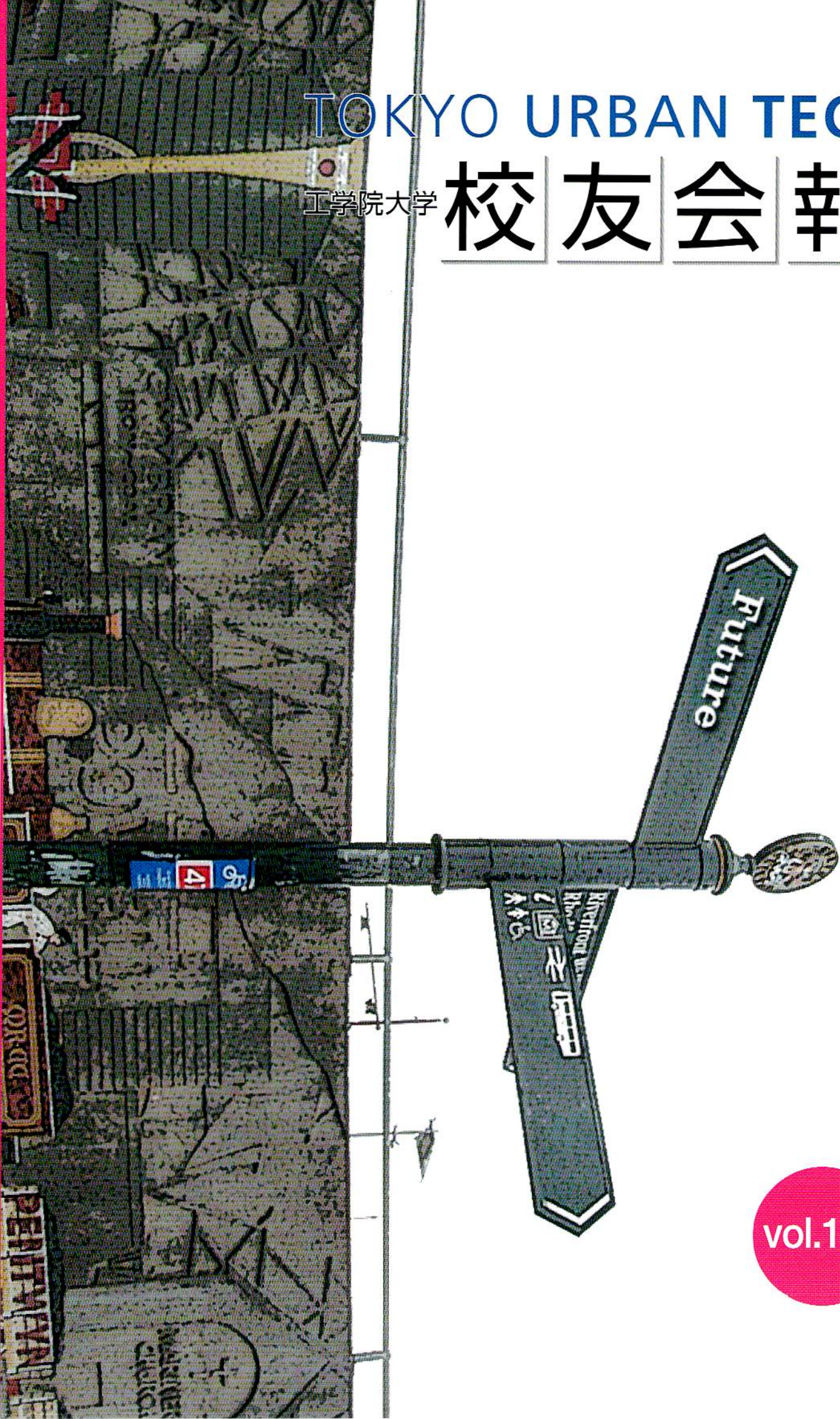
TOKYO URBAN TECH

工学院大学 校友会報



vol.129

卒業生（校友会会員）の求職・転職をサポートします！

現在、多様化する社会的情勢に対応するため、各企業ではより確かな知識と技術を持った人材の獲得が必要となっており、それに伴い確かなノウハウを持った優良な若手から中堅経験層、シニア層人材の活用など活発になっています。是非、本サポートシステムをご利用下さい。

■校友会会員の求職・転職をサポート

校友会では、昨年、建設・土木・不動産系を中心とした日建学院グループ職業紹介専門企業「ニッケン・キャリア・ステーション」とタイアップし、会員の皆様の求職・転職に対するご要望にお応えするサポート体制を整えました。また、建築系以外の職業紹介サービスも実施しています。

(1) 職業紹介事業に対する意識

より確かな人材を求める企業側の需要と優良人材の引き合わせを行なう職業紹介事業では「たくさんの情報の中から、選択することができる」、「専門機関として第3者が間に入ることで、企業側の正確な情報を知ることができ、応募する前の選別がしやすくなる」など、多くのメリットが認知されています。就職活動に当たっては、職業紹介会社を第一に選択するという流れが出来つつあります。

(2) ニッケン・キャリア・ステーション（厚生労働省大臣許可 13-ユ-090149）とは

日建学院グループ、建築業界中心に特化した職業紹介・人材派遣のエキスパート企業です。コンサルティングを通してより前向きなスキルアップ・ステップアップ求職・転職ができるよう、その方の可能性を拡げる、お手伝いを心を込めて行っています。また、2006年には活発化しつつあるシニア需要に対応するシニア事業部を立ち上げ、積極的な活動を行なっています。

現在社員数145名（社員35名、派遣社員110名）、顧客企業3,800社、登録人数8,500名

実績紹介（平成14年～）全体：派遣650件、紹介850件

工学院大学関連卒業生　200名（全学科の登録者）、紹介者26名

(3) ニッケン・キャリア・ステーションの親会社・日建学院（建築資料研究社）とは

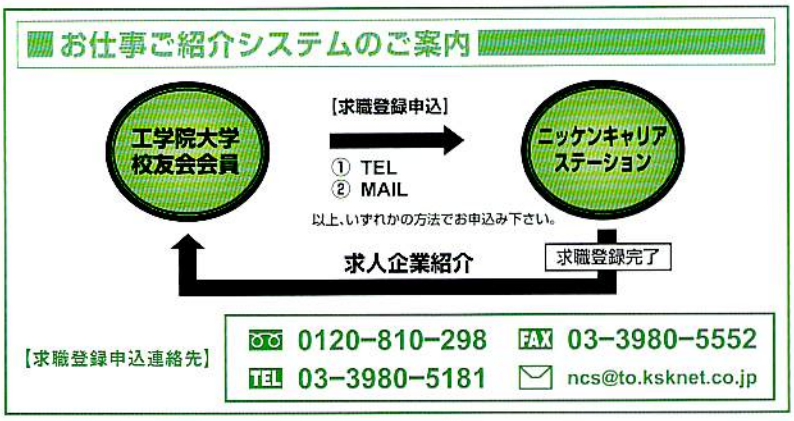
全国130校、建築系国家資格取得教育業務を主体に、建築関連専門誌の発行なども手掛ける企業で、建築系資格取得では40年近くの歴史を持ち、毎年約10万人の講座終了実績があります。

■登録希望者本人が直接「ニッケン・キャリア・ステーション」にお申込み下さい。

「ニッケン・キャリア・ステーション」への求職登録は電話もしくはメールで連絡して下さい。窓口の担当から今後の流れをご説明致します。東京・横浜・大阪・名古屋の拠点にて登録をして頂きますが、その他の方法についても相談できます。

＊登録から仕事の紹介まですべて無料です。

＊個人情報など厳守されます。



2007年12月に八王子の施設がスチューデントセンターに移転しました。
これからもよろしくお願いします。

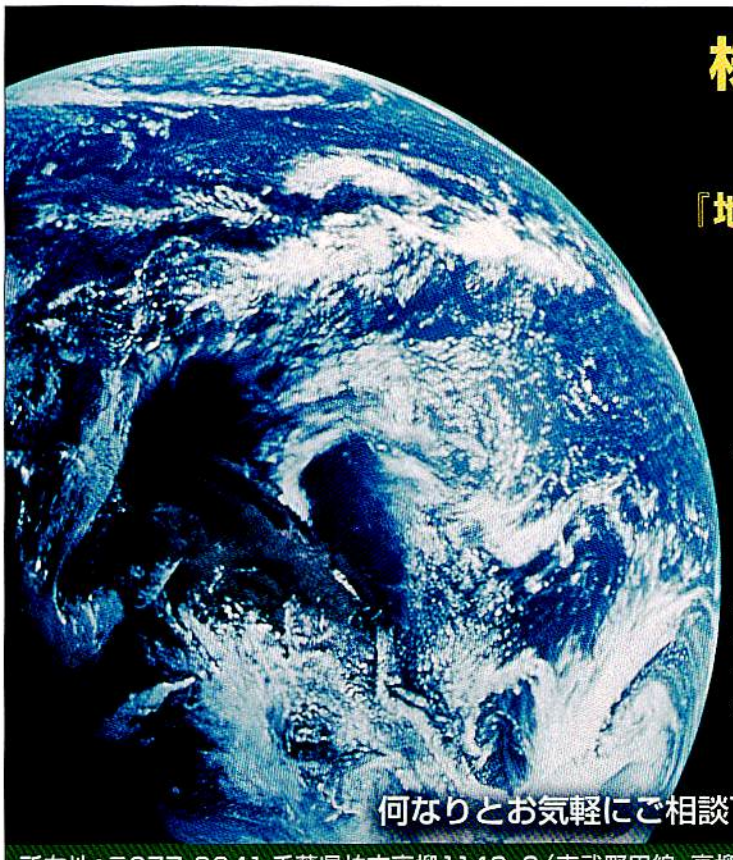
SINCE 1982

SINCE 1963

１階が購買書籍
２・３階が食堂です

８００席の広い食堂になりました

工学院大学学園生活協同組合



株式会社 ヂーマグ

当社は 1990年創立で、
『地球環境を大切に』をモットーとし、
資源、エネルギーを守り、
自然環境に貢献する
磁気装置の専門会社です。

＊商品紹介：1.永久磁石式アルミニウム溶解炉撹拌機
：2.選択帯電型静電選別装置
：3.その他　1).廃棄物関係 12 種類
2).水関係 7 種類
3).大気関係など
＊特許件数：59件
＊主な取引先：新日鐵、トヨタ自動車、東芝など
＊海外支社：米国・中国・韓国
＊海外工場：中国杭州(2005年に中国との合弁会社
設立：資本１億・社長：高橋謙三)

何なりとお気軽にご相談下さい。とにかくアクセスしてみて下さい。

所在地：〒277-0941 千葉県柏市高柳1143-3(東武野田線・高柳下車徒歩3分)
代表取締役　高橋　謙三(本学機械工学科1970年卒)
sales@zmag.co.jp
TEL：04-7193-1620 FAX：04-7193-1621

八王子キャンパス「スチューデントセンター」

Contents

校友会役員情報
- 各部会の活動報告 ……3
- 校友会会長挨拶　長嶋秀世 ……4
- 沖縄大会開催のお知らせ ……6

学園役員情報
- 再任のご挨拶　理事長 大橋秀雄 ……8
- 大学における教育改善について　学長 三浦宏文 ……9
- 学校は人間関係を学び築く場
  工学院大学附属中学・高等学校 校長 太田忠之 …10
- 教育の原点に触れて
  工学院大学専門学校 校長 大勝靖一 ……11

学園TOPICS ……12

学園史情報
- 工手学校アーカイブス　茅原 健 ……16
- 明治神宮外苑のシンボル『絵画館』を設計した小林正紹
  類洲 環 ……18

卒業生からの便り
- 何事にもチャレンジする精神が大切　北爪靖彦 …20
- [redacted]
- 私の化学への道　府川通博 ……24
- 今こそ上昇に転じなければならぬ時　串田克巳……26
- 「住まいづくり」と共に生きる　宮下登久子 ……28
- 旭山動物園にて　石井正則 ……30

北郷先生追悼
- 北郷先生を偲んで　理事長　大橋秀雄 ……32

各支部の活動報告
- 支部だより ……33

学園事業の紹介
- 学園創立125周年記念事業がスタートします。
  理事・事務局長 高橋政雄 ……38
- 遺贈による寄付制度にご協力をお願いします。……39
- 工学院大学校友子女特別選抜入試を実施します。…40
- 教員の卒業生・修了生の皆様、情報をお寄せ下さい。
- 工学院大学校友教諭在職高校特別推薦入学試験 …41

校友会事務局からのお知らせ
- 校友会事務局からのお知らせ・お願い ……42
- 「第63回 評議員会・第52回総会」開催のお知らせ 43
- 訃報 ……44
- 平成19年度事業報告(案)、平成20年度事業計画(案) …45
- 平成19年度収支計算書、平成20年度収支予算書(案) …46
- 平成20年度 支部総会開催予定表他 ……47
- 企画・広報部会からのお知らせ ……52
- 校友会H.P、広告募集、表紙デザイン説明、編集後記

工学院大学校友会

各部会の活動報告

総務部

副会長／総務部長
渡辺征一郎

平成19年度の総務部の活動は評議員会・総会の開催、各種会議の開催、規程類の制定、改定の他、各種会議の録音テープのCD化、議事録関係のPDF化が主なものである。理事会で承認を得た規程は、校友会表彰規程（改定）、校友会本部事務組織分掌規程（改定）、校友会会長選出規定（改定）、法人評議員推薦規程（改定）、法人理事推薦規程（制定）、法人監事推薦規程（改定）、校友会旅費規程（改定）、全国大会開催規程（制定）である。なお、平成20年度の主要テーマは、政府の進める公益法人改革の動きを見ながら今後の校友会のあり方について検討していくことになる。

副部長　島林正美、
理事　横田仁、伊藤雄朗、久禮和彦、北澤興一、木本勝正、飯塚辰典、佐久間惣喜、坂口教子

財務部

財務部長
並木　光雄

① 校友会会計処理チェックマニュアルを作成して、会計チェックマニュアルによる会計チェックを4回／年実施した。特に、高校同窓会で発生した校友会費等の私的流用事件の再発防止のため、会計処理のチェックについては入念に実施した。
② 校友会監事による単体同窓会の会計監査（平成18年度分）を支援して、12月末までに6同窓会すべての会計監査を実施した。
③ 校友会出張旅費規程の改定を総務部と協力して実施し、10/12から新規定で実施している。
④ 校友会の財産管理の見直しを行い、安全で効率のよい財産運用案を財務部案としてまとめ、常任理事会に答申した。

副会長　渡辺征一郎、副部長　若栗徳男、
理事　関谷重彦、朝比奈明、浅山行博、軍司俊彦、田中正裕、三宅捷夫、渡辺征三、西原康二

企画・広報部

副会長／企画・広報部長
田野邉幸裕

4年後に学園は、創立125周年を迎えます。広報誌は、この長い歴史の中での卒業生の活躍などに注目し、カラー写真や充実した内容を掲載することで、皆さんが誇れる会報を目指して、全国の校友（65,000部）へ発信します。

また、昨年スタートした求人情報の更なる活性化を図り、校友会ホームページや情報ネットメールの管理と新鮮な情報発信に努めることで、校友会の活動に寄与します。

副部長　太田正利
理事　田村久義、都築登輝浩、吉川重克、名取勝敏、大場光博、岡安彰、佐藤敏勝

組織・事業部

組織・事業部長
來住　康弘

今年度から組織部と事業部を統合し、組織事業部とする事になりました。
前号vol.128に校友会の長期的な展望が下記の通りまとめてあります。今期部分2007～2009期《ステップ》を書き出せば、
（1）校友会の組織強化、支部との連携強化（2）学園連携、入学志願者の増加活動
（3）広報活動の充実、インターネット資源の活用となります。
この内、我々が関係するJOBは（1）でこれを重点的に活動しております。
組織強化とは、多くの卒業生に校友会活動に参加をして頂く事。
本部と支部の連携強化とは、情報伝達の双方向性の実現と考えております。
昨年の全国支部長会ではその方向に向け、既に歩み出したところです。皆様のご支援ご協力を宜しくお願い致します。

副会長　高田貢、副部長　加藤隆弘、
理事　前田道徳、大津幹太郎、吉田幹雄、小沢和重、谷口宗彦、石渡秀夫、中島孝明、梶野和己

学園連携部

学園連携部長
笹原　克

学園連携部は、平成19年度4月に学園と校友との連携を推進することを目的として新しく創設されました。本年度事業は大きく2つ事業を行いました。

第一は、「校友子女特別選抜連携事業」です。本大学における入学者の減少という大学経営の根幹を揺るがす事態を迎え、校友を対象とした新しい特別選抜入試の支援を行いました。具体的には校友への幅広い問いかけをおこない、平成20年入学として校友の子女16名の特別枠入学が確定しました。

第二は、「高校訪問委託に関する連携事業」です。校友で高校教諭の経験を有する60歳から65歳の対象者約150名に高校訪問委託の意向を確認し、本年度は8名の方が学園活動に協力頂いていました。

副会長　姫野有文、副部長　池崎誠、
理事　近藤智、杉山助一、佐藤浩安、鷹野一朗、後藤敏明、芳賀榮高

校友会会長挨拶

校友会会長　長嶋　秀世

永久に不滅です
誰が言ったか知っていますか？

私は今日ここに引退いたしますが、我が巨人軍は永久に不滅です。

そうです。

あの長嶋茂雄です。昭和49年10月14日、後楽園球場で引退するときの言葉である。

しかし、最近の巨人軍は不滅かどうか危うくなっている。絶対的なブランドであった巨人という名前に陰りが出てきた。なぜ、観客が減るのか、なぜ、視聴率が下がるのか、原因を分析し、運営に反映させることが必要であろう。

『永久に不滅です』の言葉は残ったが、人が支配しているものに『不滅』はないのか。

『諸行無常』という言葉を連想する。

いま、多くの大学が少子化の影響で非常に厳しい状況に置かれている。大学の経営は、18年先が読める。したがって、少子化の波が押し寄せる前に手を打っているところもある。

しかし、多くの大学は、『今』、変わりつつある。

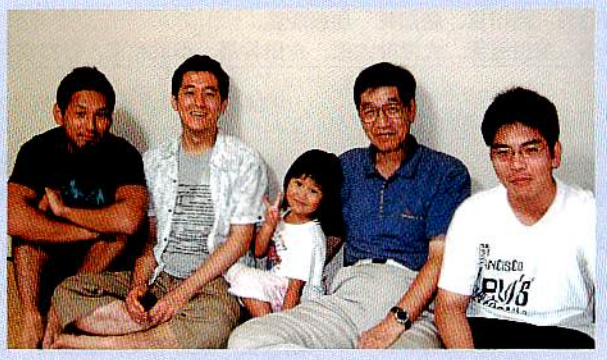
工学院大学は、昨年、卒業生の血縁関係者に対する推薦制度を作り、今年の４月からＯＢ教員の推薦による入試制度を発足させる。昨年度は、学園連携部の活躍により、多くの卒業生から推薦制度に応答がありました。今年は倍増するぞ、と言ったら、笹原部長に叱られました。

我々の原点である学園は不滅であって欲しい。

校友会は、学園を全面的にバックアップしなければなりません。校友の一人ひとりが自分の周りの家族や同窓生に働きかけ、新しい工学院大学を知ってもらい、少しでも多くの人たちに受験してもらいたい。

さて、次の課題は、校友会のパワーアップである。会員の動員力、資金、どちらも重要である。そのためには、校友会や同窓会、全国の各支部による総会、懇親会に大勢の校友が集まるシステムを作らねばならない。これまで、あまり多くの人が集まらなかったのは、何が問題か分析する必要がある。東京電力のホームページのアンケート結果によると、同窓会に不満を感じる点は、

１位　開催場所が遠い
２位　いつも同じ顔ぶれ
３位　一部の人達だけで盛り上がる
４位　会いたくない人にも会う



５位　会費が高い

となっている。このうち、避けられないこともあるが、やり方次第でできることもある。

仲間に会える、懐かしい、もう一度来てみたい、楽しい集まりであることが重要である。

さて、今年は10月11日（土）に沖縄で全国大会が開催される。

沖縄と言えば、世界遺産にも登録されている首里城、サンゴ礁から生まれた神秘の大鍾乳洞「玉泉洞」や魔除けのシーサーなど奥様や同級生と観光するのも楽しい。そして、珊瑚礁やエメラルドグリーンの海でマリンスポーツ、青い空のもとでのゴルフもいいですね。また、旧友と再会し、昔話に華を咲かせながら、ソーキそば、ゴーヤ料理を食べて、泡盛、オリオンビールで一杯なんていかがですか。女性には、ＤＦＳギャラリア沖縄やアウトレットモールも魅力的です。

同級生やクラブの仲間を誘い合って参加しましょう。

ある会員に聞いた話ですが、会報が来ると封を開けるやいなやゴミ箱へ、どさっと。

勘弁してください。

結構お金がかかってるんです。

やはり、おもしろくないものを作っている側に責任があるか。

巻頭の挨拶が一番おもしろくない？？

私の責任か！！

今回は、多くの批判があることを覚悟の上で、巻頭文のスタイルを変えた。学園の目新しいイベントや新しくできた施設のことは別のページに譲り、情報の重複を避けた。意見がありましたら、何なりとお聞かせ下さい。

いま、広報部では大場さんを中心として読みたくなる校友会報を目指して頑張っています。

広報部のみなさん、楽しい会報を、ありがとう。

校友会は、卒業生のみなさんが、楽しく、幸せな人生を送れるよう頑張ります。

風薫る爽やかな季節を迎えました。

みなさんのご活躍とご健康をお祈りします。

（社）工学院大学校友会

第16回全国大会沖縄大会開催のお知らせ

～～～南国の島　沖縄へめんそーれー！～～～

社団法人　工学院大学校友会
会長　長嶋　秀世
沖縄大会実行委員長　芳田眞喜人

沖縄県支部
支部長
芳田眞喜人

よしだまきと
芳田眞喜人

学歴・職歴
沖縄県立沖縄工業高等学校
工学院大学工学部電気工学科　中森研究室
メールアドレス
bmdqw501@yahoo.co.jp

沖縄電力（株）　1972年5月入社
2004年3月退社

毎年発行の校友会会報Vol.127、128にて第16回工学院大学校友会全国大会沖縄大会（平成20年10月11日土　開催）へのご挨拶文を掲載さて頂きました。

今回は大会期日・大会場所・申し込みの方法や開催県沖縄の特色など、詳細に亘ってのPRをさせて頂きます。

沖縄県の面積は2,275K㎡、53万世帯、人口約140万人の大きな島です。

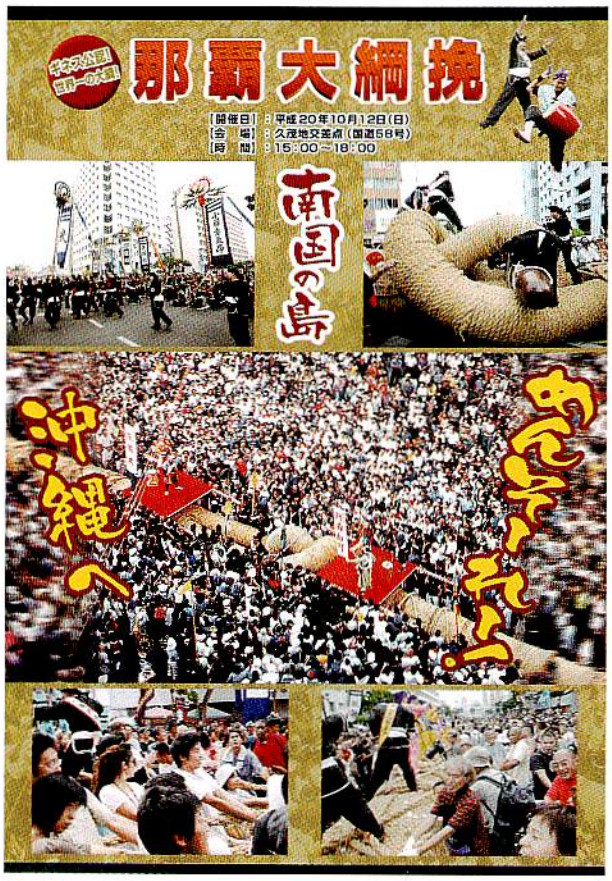
県庁所在地である那覇市の人口が31万人で、ミニ東京と言われるまでに発展している都市です。

先ず全国大会が開催される沖縄の10月の季節ですが、スポーツの秋にふさわしく日中の気温が27，28度、夜は22，23度で凌くしのぎ易いです。

沖縄の伝統芸能と言えば歌三線による琉球舞踊、空手、獅子舞、エイサー等ユニークな芸能など独特な伝統芸能があります。その他沢山の世界遺産が有ります。

沖縄の観光地、旨いものの店、土産品店等は後で紹介します。

全国大会実行委員会では、500名の参加を目標に準備を進めています。ぜひ一人一人が会員への参加呼び掛けをして頂きたいと思います。



—大会実施要領—

開催日：2008年（平成20年）10月11日（土）
会　場：沖縄県那覇市西3-11-1
（沖縄県男女共同参画センター　てぃるる）
那覇空港よりタクシーで15分
電話番号：098-866-9090

—大　会—

[受　　付]：16：00～17：00　ロビー
[大会式典]：17：00～17：30　大ホール
[記念講演]：17：40～18：45　大ホール
[祝 賀 会]：19：00～21：00
パシフィックホテル(式典会場より徒歩３分)
参加費：10,000円／1人　同伴者；7,000円／1人
＊郵便振込先：口座名義　工学院大学校友会沖縄県支部　番号：1740－2－134492
＊参加できなくて寄付をしていただける方も上記口座への振込みをお願い致します。(1口・5,000円)

事務局：〒903-0117
沖縄県中頭郡西原町字翁長920－57
TEL兼FAX　098-946-7062
校友会沖縄県支部長：芳田眞喜人

祝賀会では沖縄の独特の伝統芸能が鑑賞できるよう企画しています。

＊沖縄での全国大会は、沖縄らしい大会にしたいとのことから「かりゆしウエア」か「クールビズ」着用での参加をお願い致しております。
かりゆしウエアの調達は各人でお願いします。
GoogleかYahooで「かりゆしウェア」と入力し検索すれば、サイズ、柄、値段及び調達方法が判ります。

「全国大会翌日は」ギネスブックに登録されている那覇大綱挽の無料イベントに参加出来るように企画しています。

10月12日（土）有料イベントとして首里城・玉泉洞観光コースを設定していますが、この観光コースを観光した後、那覇の大綱挽に参加出来るように時間設定してあります。

10月12日（日）15：00より17：30までの間30万人の観光客が熱狂する那覇祭りの最大イベントの大綱挽の大綱は、重さが43トン、直径1.7m、長さ200mもあり、ギネスブックに登録されています。

約２万人の方々が東西に分かれて銅鑼や鐘の音と、掛け声に合わせて引っ張り合いをします、迫力満点のイベントです、20分～30分ほどで決着が付きます。

大綱挽会場から那覇空港までは車でなら15分で行けます。

沖縄大会参加パックツアーのご案内

航空運賃とホテル代がセットのお得なパックを用意致しました。
ギネス公認、世界一の大綱「那覇大綱挽」にあわせた全国大会の開催。
沖縄観光に最も良い時期の一つです。
閑散期のツアー運賃がインプットされている校友の皆様にとっては、高いと思われるかも知れませんが、京王観光様の協力も得、この時期では最高の格安パックです。
大会参加の他、観光スケジュールに合わせてコースをお選び下さい。

◆標準コース内容
フライト：校友会HPに掲載しております。
ホテル：パシフィックホテル　朝食付き、シングル利用の金額。
ツイン利用の場合、H.P掲載の標準コースより2,500円マイナス
★フライト・ホテルは標準コース以外も可。
（校友会HP参照下さい）
★フライトのみ、ホテルのみのご手配も可能です。
※「(社)工学院大学校友会」専用のツアーです。
各地発5名に満たない場合、料金は適用しませんのでご注意下さい。
※お席・お部屋には限りがございます。
ご希望に添えないことがございます。予め了承下さい。

HPを見ることが出来ない場合は下記へお申し込み頂ければ資料を送りします。
お申込み・お問合せ先
(社)工学院大学校友会　事務局
TEL：03－3342－2064　FAX：03－3342－2035
E-mail:jimu2@kogakuin.or.jp　http://www.kogakuin.or.jp

再任のご挨拶

学園役員記事

理事長　大橋　秀雄

2003年北郷薫前理事長のあとを承けて学校法人工学院大学の理事長を拝命してから、すでに5年の歳月が流れました。この時期は、18歳人口の急激な減少、それに輪をかける工学離れと、学園を回る外部環境は厳しさを増し続けました。その間、「学園と校友会は車の両輪」と強く認識していただき、校友の皆様が学園のために一致協力してご支援いただいたことに、厚く御礼申し上げます。

この3月末で第19期理事会が3年の任期を終了し、4月からは新たに選出された第20期理事会が経営責任を負うことになります。私は理事長に再任されましたので、4年後に創立125周年を控える大切な時期に、もうしばらく理事長を務めさせていただきます。学園発展のために、これまで以上の力強いご支援をお願い申し上げます。

工手学校以来の伝統を継ぐ専門学校は、この3月末ですべての学生が卒業し、授業を停止しました。18才を対象とする工学系専門学校進学者の減少が止まらず、実践的技術者育成の伝統をすべて大学が引き継ぐことに踏み切ります。この現実をご理解を賜った専門学校卒業生の方々に深く感謝いたします。大学第2部についても状況は同じで、これにも抜本的な対応が必要になります。

大学の第1部と大学院は、学園を支える屋台骨になります。創立125周年を誇らかに祝うための主戦場になります。現在進行中の学園5カ年計画「ダッシュ21」、これをご説明するには紙面が足りませんので、その目標達成に全力を挙げることをお約束します。

附属中学・高等学校は、「工学院大学に入れる学校」から「希望する大学に進める学校」へと特色の転換を進め、恵まれた環境と熱意ある教育に支えられて着々その成果を挙げています。現在附属高校卒業生の約半数が工学院大学に進学しますが、附属中高と大学が競い合って、互いにその魅力を高める方向に進めてまいります。

校友の皆様にとって、学園が単なる過去の通過点ではなく、生涯にわたって誇りの源泉となり、リフレッシュ基地として役立つものである必要があります。それに向かって両輪の方向を揃え、お互いにまっしぐらに進みましょう。

大学における教育改善について

学園役員記事

学長　三浦　宏文

最高学府である大学というのは、最先端の学術研究を行い、その成果を学生に伝えるところです。しかし、研究者と教育者の両方の顔を持ち、どちらも立派な仕事をするのは決して容易なことではありません。一昔前の先生であれば、研究に没頭していて、教育には力を入れなくても学生がついてきたのでしょう。今日では時代も変わり、教育に大きな力点を置かなければならなくなってきているのが実情です。また、社会的にも教育に対する外部からの評価を受けるようになってきています。

2002年の学校教育法改正により、大学は指定の外部機関から、少なくとも７年に１回認証評価を受けなければならなくなりました。本学は2007年４月に、改めて大学基準協会の認定を受けました(写真)。また、JABEE（日本技術者教育認定機構）は、技術者教育プログラムが社会の要求水準を満たしているかどうか審査・認定する制度を実施しています。日本で初めて、2001年度からその認定を受けた３件の内の１つが、本学の国際基礎工学科（現　グローバルエンジニアリング学部機械創造工学科）です。引き続いて機械工学科、機械システム工学科が2004年度から認定を受けました。

最近PDCAという言葉をあらゆる場面で聞くようになりました。Plan-Do-Check-Actionの略です。だいたい、何事をするにも、Plan-Doは誰でもするのですが、その後のフォローが難しいものです。チェックをして、改善のためのアクションをする、ということでサイクルが一巡することになります。JABEEはもちろん、大学の認証評価からISO14001、さらに内部監査までPDCAサイクルを回すことが求められます。できることなら、これらを一体化した形で回せるようにする必要を感じる今日この頃です。

サイクルを回すには大変な労力がかかりますが、教育の改善努力なくして大学は存在し得なくなってきている状況です。そのことを念頭に、本学は今後のたゆみない発展への努力を続けてまいります。

大学基準適合認定証

工学院大学殿

貴大学は 平成18年度相互評価の結果 本協会の大学基準に適合していることを認定する

平成19年4月1日
財団法人　大学基準協会
会長　白井克彦

大学基準協会からの「大学基準適合認定証」

学校は人間関係を学び築く場

学園役員記事

工学院大学附属中学・高等学校　校長　太田　忠之

中学および高等学校の年代、すなわち13歳から18歳というのは一人ひとりが長い人生をどのように歩むかの基盤を形成するきわめて大切な時期であり、この期間の教育にたずさわる学校と教師の取り組みは生徒達に大きな影響を及ぼします。精神的かつ肉体的に複雑な変化を伴いながら成長する中で、小さなきっかけで両者のバランスがくずれやすいむずかしい年代であるうえに、時代と社会状況の変化は様々な形で生徒達に反映しているように思えます。わが国においては長らく少子化が進行してきた中で人間関係をうまく構築できない子供が増えてきていると感じています。人間は１人で生きてゆくことは出来ませんし、集団の中で周りの人たちと円滑な人間関係を築いてゆく能力がないと将来社会人として適応できません。学校は「人間関係を学び築く場である」ことを忘れずに教育活動に取り組んでまいります。

本年度の卒業生は90%が現役で４年制大学に進学しました。これは大学全入時代になったという背景の中でのことでありますが、一人ひとりの生徒への適切な進路指導の結果であると評価しております。生徒達の諸活動は活発に展開されています。特に吹奏楽部は昨年に引き続き東京都大会Bクラスで金賞を獲得し、金沢で開催された東日本大会に出場できました。初めてのことで多額の遠征費という予期せぬ問題が生じ心配しましたが校友会からの援助をはじめ多くの支援のもとに出かけることができました。生徒達は全力で演奏し銀賞の栄誉を獲得しました。スポーツでは個人種目でフィンスイミング・アジア大会出場、卓球・全国大会出場など多くの活躍がありました。高等学校の新校舎のアトリウムでは生徒と保護者のための２回の講演会―武田暁先生の「脳の知られていない不思議な働き」、三浦宏文先生の「ロボット研究のおもしろさ」―とPTA研修部主催による「チェロ演奏会（チェロ：林峰雄、海老沢洋三、ギター：サーシャ・デヤノヴィッチ）が開催されました。

国際交流ではオーストラリアのInvestigator College の生徒11人と教員父兄５人が本校を訪れ保護者の家庭にホームステイし相互交流を深めました。

銀賞　第7回 東日本学校吹奏楽大会

教育の原点に触れて

学園役員記事

専門学校校長　大勝　靖一

昨年の校友会報をお持ちですか？それをお読みになって、続きとして以下をお読み下さい。昨年正規の卒業生を送り出し、校旗伝承式をもって工手学校以来の教育を行ってきた専門学校の精神を大学に受け継いでもらうことになりました。

本年度は留年生が12名いましたが、１名は退学、９名は９月30日の卒業、残り２名はこの３月18日に卒業ということで、本学園の教育精神である「満足できる卒業生を世に送り出す」という使命がまっとうできる状況になっています。

さて私が校長として専門学校に来て以来４年の歳月が過ぎようとしています。その中で、先生方の協力で行いえたことですが、教育の効率化を考える機会がありました。私が大学に在籍していたときには、高校の教科にある「化学」を学んできた学生に、どのようにして大学の「化学」を教育するか、暗中模索の連続でした。しかしこの大学で認識した学生の長所も短所も、私自身が模索してきた教育方法の長所も短所も、専門学校での教育にかなり役立ったと思うし、教員も多くのアイディアを提供してくれ、活気ある教育ができたと自負しています。しかしそのような教育に合わない生徒が年々増えてきました。

特に昨年と今年は、このような生徒をどのように教育するかが私の重要な仕事でした。５回以上会った生徒が何人もいます。話をそれとはなく聞きました。はじめのうちは黙っていますが、私が敵（？）でないと分かってくると、少しずつ話をしてくれるようになります。最も多い勉学がはかばかしくない理由は両親、特に母親との人間関係にあることが分かりました。タイプは３つに分けられます。すべての事例は両親が子供のためと考えてしていることなのですが……。①親が子供にさせるべきところをすべてやってしまい、子供がそれに甘んじるタイプ、②①に近いが、親の考えを無理強いするために子供がそれに反抗するタイプ、③放任するタイプ、の３つです。①はニート予備軍であり、②は親に反発する意思を、「２年では卒業しない」という行動で表す生徒たちです。③は親として論外なケースですが、自立させようと思う親心でしょう。①、②の場合が多いのですが、両方とも生徒の対象が勉学でなく、親に向いていることです。これを学校での教育指導で何とかしようなんて考えるのはとても無理なことです。両親と話し合いも何回となく繰返し、何人かの生徒を立ち直らせました。このようなことを行うとは思っても見なかったことですが、大学も今や同様の状況にあると思います。これが今日まで日本の行ってきた政策の歪みであり、高等教育で行わねばならない教育の原点なのかもしれません。考えたくもない期待ですが、専門学校での試行が大学の教育に役立てばと思っています。

追記：専門学校の同窓会報告等のお知らせは下記ホームページで御覧下さい。
http://www.kogakuin.or.jp/senmon/

学園TOPICS

孔子学院設置の協定書に調印

学校法人工学院大学と中華人民共和国孔子学院本部は「工学院大学孔子学院」を共同設置することで合意し、本年１月22日、協定書の調印式を挙行しました。

式には、中華人民共和国駐日本国大使館教育処の孫　建民（ソン　チェンミン）公使参事官と魏　鈾原（ウエイ　ヨウエン）二等書記官が出席されました。そして、孔子学院本部を代表して孫　建民氏が、本学を代表して大橋秀雄理事長が協定書に署名をしました。

孔子学院は、中華人民共和国政府が中国語と中国文化の普及を目指し、世界の大学と共同で設置、展開している非営利の教育機関で、世界各地で既に200余校が設立されています。日本では11番目、工科大学としては初めての開設です。

工学院大学孔子学院は新宿キャンパスにおいて、中国との経済、文化交流を促進しようとするビジネスマン、社会人、学生を対象に中国語講座、技術中国語講座および中国の歴史、文化、科学技術、自然環境、法制度、知的財産制度等を幅広く学べる、技術系にふさわしい、世界でもユニークな孔子学院を目指しています。

初代工学院大学孔子学院長には北京大学客員教授の西園寺一晃（さいおんじ　かずてる）氏が就任し、本年４月から記念講演会等がスタートしました。

スチューデントセンター竣工

八王子キャンパス「スチューデントセンター」がこのたび竣工し、昨年12月５日に、工事関係者・学園関係者による見学会と引き渡し式が執り行われました。

スチューデントセンターは、食堂、カフェ、ラウンジ、売店、多目的ホールなどで構成する学生のための福利厚生施設です。引き渡し式当日にオープンした食堂には、多くの学生が押し寄せ、新しいダイニングホールの味を楽しんでいました。同センターは、今後学生たちが集い、語り合う場として、八王子キャンパスの顔となることが期待されます。

スチューデントセンター

設計・監理＝澤岡清秀＋山本・堀アーキテクツ設計共同体

施　　工＝銭高組

構造・階層＝S一部RC造地下１階地上３階建て

延べ床面積＝5,520.36m²

朝日カルチャーセンターと連携「工学院大学・朝日カレッジ」がスタート

社会人教育では歴史と伝統のある朝日カルチャーセンターと本学が、連携して社会人教育講座を開設することについて合意に達し、本年1月24日に調印式が挙行されました。

本学では、昨年4月から、社会人を中心とする教育機関としてエクステンションセンターを設置し、秋から講座を開設、活動を開始しましたが、より積極的に展開するために、朝日カルチャーセンターと連携して「工学院大学・朝日カレッジ」の名称で種々の講座を開設していくこととしました。

工科系大学にふさわしい技術系の継続能力開発のための講座、資格取得講座のみならず団塊世代への生涯学習機会の提供、地の利を活かして多様な一般社会人を対象とする講座、さらには本学学生にも有用な講座を開設していくことを予定しています。

3月22日には開講記念として、脳科学者の茂木健一郎氏と解剖学者の養老孟司氏が「脳と生命」のテーマで対談する講座が、新宿キャンパスで開催されました。

一級建築士試験大学別合格者数は全国第6位

昨年12月20日に国土交通省から、平成19年度一級建築士試験「設計製図の試験」の合格者が発表されました。本学出身の合格者は昨年より8名増えて71名、出身大学別合格者数では昨年と同じく全国で第6位です。建築分野における最上位資格である一級建築士の試験で毎回、上位に名を連ねることができるのは、卒業生の努力と本学での教育の賜物と言えるでしょう。

平成19年度一級建築士試験「設計製図の試験」の属性（大学）における合格者数一覧

財団法人建築技術教育普及センター
（http://www.jaeic.or.jp）より

大学名	合格者数（人）
日本大学	243
東京理科大学	131
京都工芸繊維大学	90
早稲田大学	89
芝浦工業大学	72
工学院大学	71
近畿大学	70
関西大学	57
大阪工業大学	55
明治大学	52

超高層ビル初の試み 大規模発災対応型防災訓練を実施

昨年12月6日に新宿キャンパスにおいて首都直下地震を想定し、教職員学生約1000名が参加した防災訓練を実施しました。

これまで「防災訓練」というと地域や高層ビルでは「避難訓練」が一般的でした。しかし、大震災時には、まず自分の身の安全を確保し、次に隣近所で助け合い、初期消火、重傷者の救援救護・搬送、閉じ込め者の救出、情報の収集と全体像の把握などの様々な緊急対応を町やビルの中で行わなければなりません。

特に新宿キャンパスのような超高層建築の場合、震災時にはエレベータや通信手段を失うため、一度地階に避難してしまうと上層階での緊急対応が非常に困難になり、より深刻に状況至ることが予想されます。

そこで、今回、上層階に様々な被災状況（火災・重傷者・閉じ込めの発生）を作り出して教職員・学生が協働して対処し、その後に低層階に避難し、安否確認を行う「発災対応型防災訓練」を実施しました。

これにあわせて、理事長・学長をトップとする「災害対策本部」を設置し、緊急地震速報など続々と入手される内外の災害情報をもとに、被災全体像の把握、方針の決定、重傷者や火災・安否確認・帰宅困難者・流入者など様々な対応を行ったほか、発災直後を想定した緊急対応訓練も実施しました。

同時に中層階では避難訓練と地震防災の講演会を組み合わせた「講演型防災訓練」、さらに1階アトリウムや広場など低層階では、AED・応急救護・救助・救出・消火器や起震車による地震動体験、炊き出し訓練などを行う「体験型防災訓練」も並行して実施しました。

訓練そのものは事故もなく終了しましたが、通信の輻輳など実際の地震発生に向けて多くの課題も明らかになりました。

なお超高層ビルで行う大規模な発災対応型防災訓練は初めての試みであり、同日のNHKの7時及び9時のニュース、翌日の読売新聞の朝刊で採り上げられるなど、大きな反響がありました。

今後は訓練結果の分析と、次回に向けてマニュアル整備や対応組織体制の改善などに取り組む予定でいます

中公新書ラクレから『工手学校—旧幕臣たちの技術者教育—』刊行

工学院大学のルーツである工手学校の新しい歴史像を語った、『工手学校—旧幕臣たちの技術者教育—』（茅原健著）が刊行されました。

明治20（1887）年に創立した工手学校は、わが国最初の私立工科系学校です。その創立の中心的人物は、初代帝国大学総長・渡邊洪基、日本建築の泰斗・辰野金吾、土木工学の権威・古市公威、初代工手学校校長・中村貞吉らでした。そして、その周辺には、副題が示すとおり、近代の夜明けに技術者教育に夢をかけた旧幕臣たち、大鳥圭介、榎本武揚、渋沢栄一、田口卯吉らの存在がありました。著者は、沼津兵学校、商工講習所、明治女学校などの成立過程を例に挙げて、大鳥や榎本らの技術者養成も旧幕臣の教育ネットワークのなかに位置するという視点に立ち、そこに渋沢、田口らが近代工業国家の建設という命題を推進することにより、工手学校は生成、発展したという歴史像を描いています。

本書は、『東京新聞』（2007/7/13夕刊）の「自著を語る」欄で、「異例な明治の私学の歴史像」として取り上げられ、また「近代化への技術者教育と人脈」と題した『内外教育』（2007/8/3）の新刊案内では「技術立国を支えた技術者教育がどのように行われたか、『工手学校』（現工学院大学）の創設と経過に、近代化の精神を見る」（小川吉造氏）と紹介されています。さらに「近代化を担った知られざ

る<工手>の姿」というタイトルで『週刊朝日』(2007/8/17)「新書の穴」)には、「実に面白い近代史になっている。そして、さまざまなことを考えさせ、刺激的だ」、「近代工業文化をいきいきと担った技術者群像の姿に私は感動する」(海野弘氏)という書評が掲載されました。

工学院大学技術士会が発足

昨年3月17日に工学院大学技術士会は、設立総会を開催し発足しました。

最近、主要企業、大学ではOBを中心に「技術士会」が次々と設立されていますが、本学でも学園関係者及び技術士の資格を有する卒業生の結集、教育と技術支援活動、技術士自身の職務能力向上と社会的貢献を果たすため、工学院大学技術士会を発足させることとしたものです。

建学以来、工業教育一筋に邁進してきた本学は、工業近代化の進展を担う科学技術の研究開発、教育に真剣に取り組み今日に至っています。本学卒業生、学園関係者の中には高度な科学技術を支える専門技術者が多数存在し、「技術士」の資格を有する者も多方面で活躍しています。

「技術士」は医師、弁護士、公認会計士などと並ぶ国家資格で、技術者として最高のライセンスです。技術コンサルタントや高度な専門技術者として社会的に認知されています。

本会では、会員技術士が気軽に本学に立ち寄り、技術分門を越えて相互研鑽と親睦を通じ、後輩の現役学生とも交流する場として“技術サロン”の創設や、社団法人日本技術士会、他大学技術士会とも連携しつつ、技術士の活動が目に見えるよう、地道に社会貢献していくことを目指しています。

学園創立125周年ロゴマークが決定

学校法人工学院大学は、明治20年に工手学校として開学して以来、平成24年で125周年を迎えますが、これを記念して、「学校法人工学院大学125周年ロゴマーク」を制定しました。

Engineer our Future
2012

昨年1月からホームページ等をもって広く デザイン案を募集し、多くの応募作品の中から選出された入賞デザイン案をもとにリデザインされたものです。

創立125周年ロゴマークデザインコンセプト

スクールカラーの青色を「大空や宇宙」、黄色を「輝きや光」に見立て、円形の色面に、矢を勢いよく投げる人の動きで「工」の文字をしつらえました。モチーフである人と矢、数字が英字を抱え込む文字デザインは応募作品の中から着想を得て、ムーブマンと空間的な広がりを重視しリデザインしました。本学の輝かしい伝統と未来への飛躍を象徴するロゴマークとして、人の心に美しく映ることを願っています。

大学基準に適合と認定される(財)大学基準協会による相互評価・認証評価

平成16年4月に学校教育法の一部が改正され、大学は文部科学省が認める認証評価機関による認証評価を受けることが義務付けられました。これを受けて、工学院大学は、2006(平成18)年度に財団法人大学基準協会による相互評価の申請を行い、昨年4月に以下のように認定されました。

Association Japan University Accreditation
ACCREDITED
2007. 4～2014. 3

今回の報告書、大学基礎データ、認証評価結果は大学ホームページで公開しています。

http://www.kogakuin.ac.jp/tenken/2006/index.html

評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。
認定の期間は2014(平成26)年3月31日までとする。

工手学校アーカイブス

茅原　健

Profile

茅原（かやはら）　健（けん）
昭和9年10月23日生

学歴・職歴
1934年東京に生まれる。中央大学法学部卒。工学院大学総務部次長、同学校法人評議員、同学園開発本部部長。学園街区共同事業体のエステック（株）の専務取締役。後、（財）日本私学教育研究所の専任研究員、事務局長、理事を歴任。
主な著書
『民本主義の論客　茅原華山伝』、『工手学校人物誌』、『新宿・大久保文士村界隈』、『工手学校』など。

築地工手学校校舎の設計者

工手学校開校後に建てた築地校舎は、明治29年２月に行われた第14回卒業式の当夜、失火により焼失した。早速、校舎再建に取りかかった。その校舎の設計を担当したのが清水釘吉と岡本装太郎である。岡本は、当時の清水店の技師長。清水釘吉は、帝国大学造家学科を卒業した工学士。設計が清水釘吉、施行は工手学校賛助員で、工手学校創立時に多額の寄付をした清水満之助。つまりは、清水組の設計、施工であった。

手許に、『清水釘吉翁』（清水釘吉翁伝記刊行会）という厚冊がある。それによると、清水釘吉は、宮津藩士（京都・丹後）の小野高永の次男。清水満之助の家に寄宿しながら建築の実務を修業して、婿入りした。その間、辰野金吾の指導を受け、工手学校の教壇にも立った。後年、釘吉は合資会社清水組の社長に就任する。その社長時代に社運が傾き、英断を迫られた釘吉は、工手学校卒業生であった営業部長の内山熊八郎を役員に抜擢して事に当たらせた。内山は手腕を発揮して、釘吉社長に応えた。

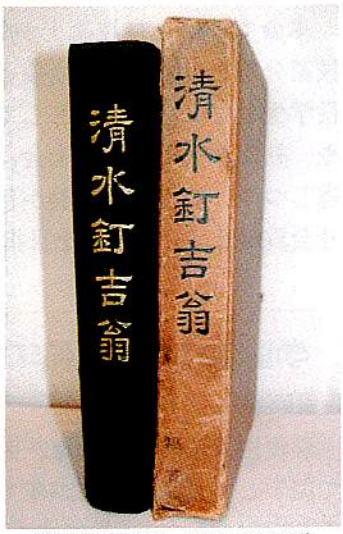
清水釘吉

その内山熊八郎は、関東大震災で工手学校が全焼したとき、復興基金として、一万円を寄付した。かなりの高額だ。工手学校卒業生の初任給が40円の時代である。これを記念して、学校は新築した淀橋校舎に「内山教室」を設けた。ちなみに、この時の一万円寄付は、個人では実業家の久原房之助で、あとは、合資会社清水組、住友合資会社、古河合資会社だった。

芝居の桟敷席から歴史が生まれる

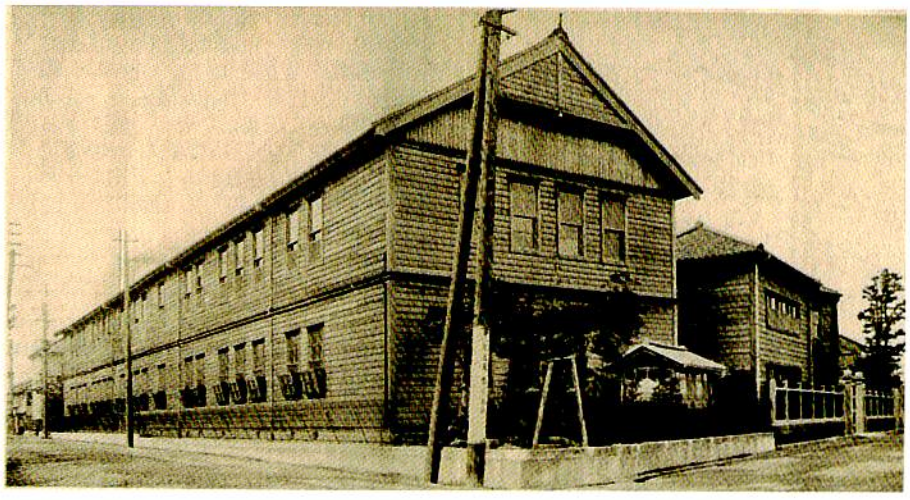
いわゆる人脈というのは、社会生活を営むうえで、かなり重要な要素となる。例えば、こういう光景がある。明治29年１月21日、明治座で催された「義経千本桜」観劇の桟敷席に、次の人々が席を占めた。穂積歌子、渋沢栄一夫妻、渋沢の長男篤二夫妻、阪谷芳郎、渡邊洪基、清水釘吉夫妻、原氏（『穂積歌子日記』・みすず書房）。

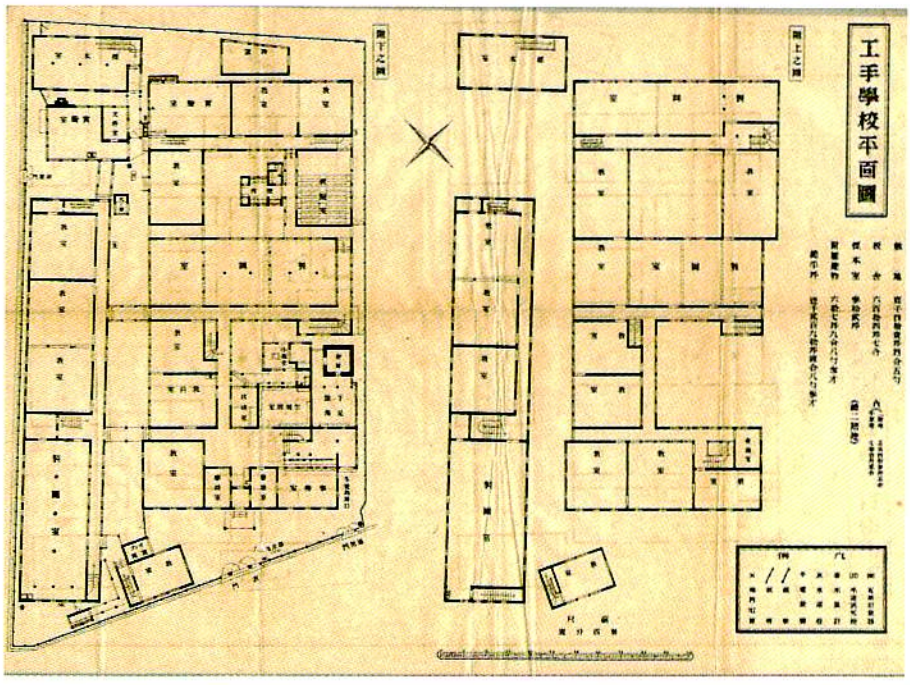
この顔触れを説明するとこうなる。芝居鑑賞に一見識があった穂積歌子は、法学者穂積陳重の妻で、渋沢栄一の娘。陳重は、清水家家法を作っている。渋沢栄一は、「論語と算盤」で清水組とも縁が深いが、工手学校の顧問で、学校創設当初から強力な支援



『清水釘吉翁』（昭和18年刊）

者であった。阪谷芳郎は、大蔵大臣や東京市長を歴任した大蔵官僚。ついでにいえば、その孫が阪谷芳直で、中江丑吉（中江兆民の息子）と親交があり、日本銀行などに関与した財界人。この芳直の奥さんが、工学院大学の機械工学科で教鞭を執った山口正博先生（実父は、工学院大学教授で化学を教えた山口与平）の令姉（『倜儻不羈の人　追悼・阪谷芳直』阪谷綾子編）。渡邊洪基は、いわずと知れた工手学校の仕掛け人。そして、清水釘吉夫妻がいて、原氏というのは、渋沢と並び称された銀行家で、工手学校賛助員の原六郎であるらしい。ひとつの歴史が、芝居の桟敷席から紡ぎ出される感がある。





三者鼎立の大学教育ネットワーク

ところで、小著『工手学校』（中公新書ラクレ）を書くきっかけのひとつに、「旧幕臣の教育ネットワーク」という考えがあった。このネットワークを現在に生かせないか。渡邊洪基の工手学校（工学院大学）、渡邊洪基も創設に関与し、工手学校賛助員であった大倉喜八郎の大倉商業学校（東京経済大学）、そして、工手学校の技術者教育に期待を寄せた、榎本武揚が創設した徳川育英会育英黌農業科（東京農業大学）。工学と経済学と農学とが連携して、相互に補完した学際的学問領域を構築する。この歴史的背景を埋没させておくのは惜しい。渡邊と大倉と榎本が手をつなぐ。地の利抜群の新宿キャンパス高層ビルにこの三者が鼎立して、大学淘汰の時代に新しい大学教育のネットワークを形成する。夢物語だろうか。

築地校舎と校舎平面図（『二十五年記念工手学校一覧』より）

明治神宮外苑のシンボル「絵画館」を設計した小林正紹［こばやし・まさつぐ］

類洲　環

Profile

類洲（るいす）　環（かん）

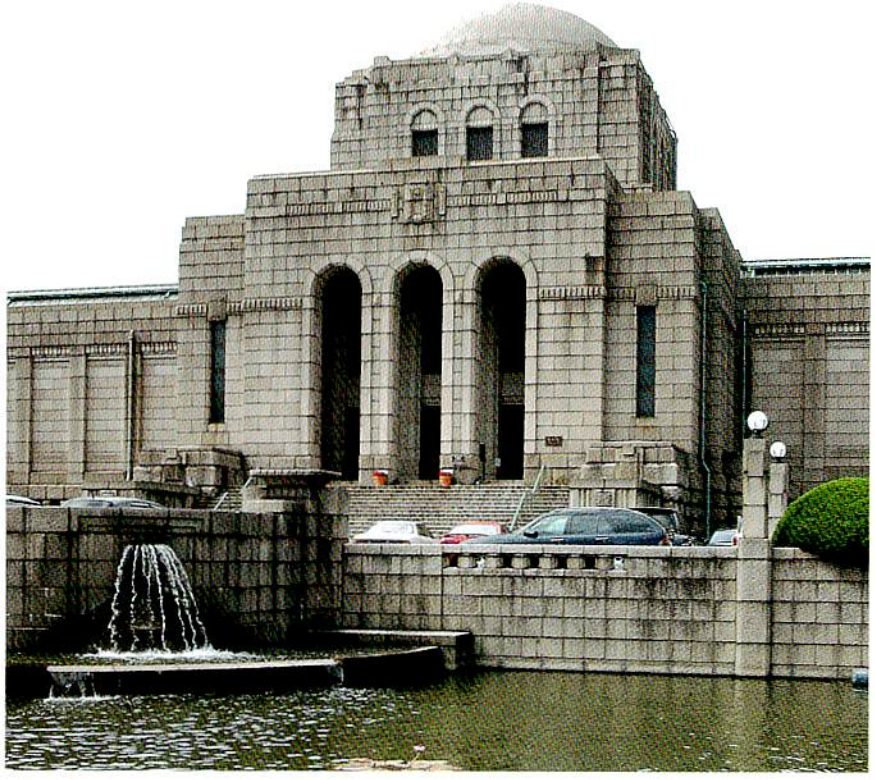
工学院大学を卒業後、建設会社の設計部勤務を経て、1973年に新建築社・編集部に入社。5年間ほど『新建築』の編集に携わり、その後、企業・建築関係団体の広報誌の企画・編集の担当となる。1997年、環編集室を設立。建築や都市の面白さ・大切さを一般の人々に伝えたいという想いから“建築時代小説”の開拓に挑む。著書に『伽牙組忍法帳～いざ戦わん、真田新十勇士よ！』（2003年／文芸社）、『西洋館炎上』（2005年／新風舎）。

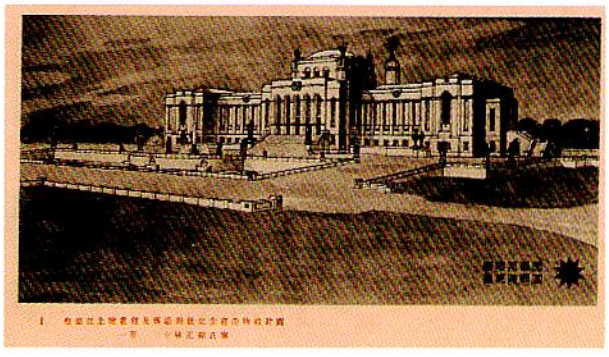
明治神宮外苑のシンボル

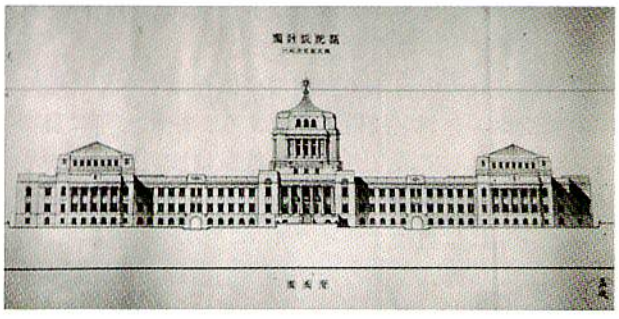
小林正紹は1890年（明治23年）11月28日、東京・麹町区紀尾井町に生まれた。1909年（明治42年）2月に工手学校建築科を卒業する。そして就職するわけだが、この勤務先が半端ではない。大蔵省臨時建築部である。当時の官庁建築を全て仕切っていたのが、大蔵省臨時建築部だった。

小林正紹の代表作の一つに「聖徳記念絵画館」がある。設計競技（コンペ）であった。明治神宮外苑のシンボルとなる「絵画館」がコンペによりどんな建築になるのか、社会は熱い注目を寄せていた。それは、発表を伝える新聞の扱いからも判る。「東京朝日新聞」「時事新報」「読売新聞」などが大々的に報じている。見出しも、凄い。「1等當選は全然獨創の名案」「審査員が舌を捲いた獨創の大傑作」が並ぶなかで、「工手學校を出た丈（だけ）」なんていうフレーズもある。

ここに、小林正紹の畢生（ひっせい）の大仕事がある。「国会議事堂」である。「国会議事堂」の意匠設計懸賞募集が1918年（大正７年）に官報広告された。「絵画館」のコンペの当選発表された年である。この「国会議事堂」のコンペにも、正紹は参加していた。が、さすがに自分の勤める役所の募集に躊躇（ためら）いがあったのか、実弟の公保敏雄の名前で応募していた。118件が集まり、正紹は当選の20件のなかに残った。その20件による第２次の応募案が集まったところで、事件が起きた。“建築は人なり”である。「公保敏雄案」の作者は小林正紹であることがバレてしまう。ここで、正紹は迫られた。大蔵省を捨てるか、自作を捨てるか――。正紹は、自作を捨てた。「国会議事堂」は1936年（昭和11年）、17年間の工期を経て竣工する。このとき正紹、45歳であった。







1980年代の中頃……正紹が亡くなってからだ、高円寺の小林邸の天井裏から膨大な図面の束が見つかった。公保敏雄の名で応募した正紹の「国会議事堂」の図面であった。焼却もせず、家族にも知らせず、秘かに我が家の天井裏に図面を仕舞っておいたところに、「国会議事堂」コンペへの正紹の自信と無念が積層しているように思える。

――1980年（昭和55年）、正紹は逝去する。享年90歳であった。

何事にもチャレンジする精神が大切

きたづめ　やすひこ
北爪　靖彦

学歴
1968年　工学院大学工学部生産機械工学科卒業

株式会社　共立
代表取締役社長
北爪　靖彦

夏の暑い日、機械系同窓会OBの小倉昭夫氏と都下青梅市にある株式会社共立（元、共立農機k.k.）の本社で2003年に代表取締役社長に就任された北爪氏とお会いした。北爪氏は米国出張から帰国したばかりで、2、3日したらまたロシアへの出張があると話され、その忙しき最中、ようやくアポイントが取れての訪問であったが、気さくに対応してくれました。

会社は終戦後の日本の食糧増産に貢献すべく、戦時中の航空機エンジン技術者が集まり、昭和22年に農機具メーカーとして設立された。社風は技術開発を中心にした実力本位の会社である。

昭和30年には自社2サイクルエンジンを開発し、当時は殆どが手動式であった防除機を始め、各種農業機械の動力化を行ったとの事です。そして、半世紀にわたり、小型軽量化やパワーアップ、排ガスのクリーン化などの技術改革を行い、常に業界をリードして、日本農業技術の発展に大きく寄与されました。また早くから輸出に力を入れ、高品質のプロ用として高く評価されており、海外でも大きなシエアをとっているとのこと。

北爪氏は1968年に高分子材料研究室をご卒業された。入社して「一番大切なのが製品の為には加工技術の向上である」との信念のもと努力され実績を積まれたそうです。入社して11年目の1979年、会社が2サイクルエンジン製品市場の大きい米国進出を決定され、新工場建設メンバーに選ばれ渡米されました。現地イリノイ州シカゴでは従業員の技術指導を行う一方で、部品調達を現地にシフトするためにJIS規格をUS規格に直したり、日本語表記の図面を英語にしたり、また協力工場を開拓され、顧客に信頼される製品を作り出すまでの苦労話を語ってくれました。そして、北爪氏は30代、40代、50代に各々5年間、家族同伴で現地生活され、その間の努力には計り知れないものがあったそうです。

渡米が決定した時、北爪氏が会社に強く要望したものがありました。それはプラスチック成型機でした。会社側は当初かなり反対したそうですが、渡米に当たっては「プラスチック成型機と一心同体である」と主張されたそうです。というのも、その当時、農機具のカバーはほとんど金属製であり、重かったそうです。その成型機を引提げての渡米でヒットされたそうです。今日ではあらゆる農機具では金属材料に取って換わって、プラスチックが使用されています。

この話を聞いた時、流石、高分子材料研究室の卒業生だなと感心しました。というのもその当時、日本の大学には高分子材料に関する研究が少なく、日本高分子学会を始

め産業界においても、本学の高分子材料研究室の活躍や業績が非常に大きかったのを、思い出したからである。

米国工場は4万6千坪の敷地に1万2千坪の社屋を有し、750名（邦人8名）体制で100万台／年、以上の製品を生産している。日本（国内900名）の生産量と合わせると200万台／年　で、現在トップブランドの地位にいるそうです。

The Kioritz product line has diversified with the needs of the times-today, we are active in a variety of fields including agriculture, orchard cultivation, and forestry.

小型2サイクルエンジンのトップメーカーである共立の製品には刈払機を始め、チェンソー、エンジンカッター、あぜ草刈機、動力噴霧機、パワーブロワ、ヘッジトリマーなどがあり、しかも何十種類と品数豊富で信頼性もあり、国内を始め、北米・ヨーロッパ・アジアなど全世界に製品を出荷している。

現在の事業内容は中・小型エンジンを用いた林業機械、農業用各種防除機械、各種産業機械および環境衛生用機械等の製品で、現在国内に2箇所と海外ではシカゴと中国の深圳に生産拠点がある。

最後に「在校生諸君、これからは機械の専門知識だけでなく、語学力を身に付けることが大切です。そして何事にもチャレンジする心が必要で、今後の諸君に期待します。」のコメントを在校生に伝えたい。その後暫く歓談の後、今後の北爪氏のご活躍と御社の益々のご発展を期待して、社を後にした。（編集：田村久義）

私の化学への道

シンコー技研株式会社
代表取締役
府川　通博

Profile

府川（ふかわ）　通博（みちひろ）
昭和11年6月4日生

学歴・職歴
昭和35年　3月　工学院大学工業化学科卒（旧麦島研）
同　4月　精工化学㈱入社
同 47年　4月　退職
同　7月　シンコー技研㈱創業（～現在）

総説・著書
一．ポリマーの友　Vol13，11，630，1976 ㈱大成社「わかりやすい感光性樹脂」連載
二．「光・放射線硬化技術」1987㈱大成社
三．「エマルジョンラテックスハンドブック」㈱大成社

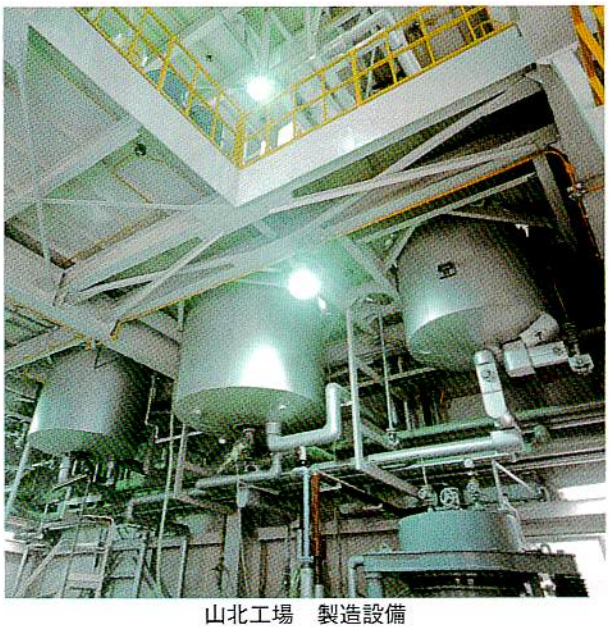
私の同期で応化会会長である若栗徳男氏に依頼され執筆することになりました。

思えば、昭和24年頃中学生であったが、その頃は石炭化学工業であり、それより得られた化合物により誘導体が得られていたと思います。

それから３～５年の間に石油化学工業が著しく発展して来た。既に昭和23年より高圧（175kgcm^{-2}）、高温（190℃）による東洋高圧（現・三井化学）が実施した空気中のN_2固定化でNH_3を造り、CO_2との反応で尿素製造がスタートしている。

$$2NH_3 + CO_2 \rightleftarrows NH_2CO_2NH_4 + 37.6KCal$$
$$NH_2CO_2NH_4 \rightleftarrows CO(NH_2)_2 + H_2O - 6.2KCal$$

高校は工業系であったので一般教科は受験校に比べ劣っていたが、化学系は大学１～２年程度は完全にマスターした。



山北工場　製造設備

既に実習実験ではベンゼンよりアニリンの合成（ニトロ化・還元反応）

$$C_6H_6 + HNO_3 \longrightarrow C_6H_5NO_2 \xrightarrow[Fe\text{-}HCL]{H_2} C_6H_5NH_2$$

又、アセト酢酸よりアセト酢酸エステルの合成（エステル化反応）解熱剤

$$CH_3COCH_2COOH + C_2H_5OH \rightleftarrows CH_3COCH_2COOC_2H_5 + H_2O$$

（現在ではジケテン $CH_2=\underset{\underset{O}{|}}{C}-\underset{\underset{CO}{|}}{CH_2}$ にエチルアルコールで合成）

簡単な有機合成は実習でマスターしたが、非常に興味を覚え、更に続けたいと云う要求と教授が工手学校卒（現・工学院大学）であったので受験した。

大学では１～２年は基礎化学から３～４年になるに従って高度なレベルまで無機・有機化学と実験を通して教育を受けた。

卒論では麦島先生の研究室に属し、テーマはパルプ廃液（国策パルプ）中の“リグニンスルホン酸の各種粉体処理による合成ゴムへの利用”で、アニオン系界面活性剤として、JSR加工技術研究所にてロール操作、加硫試験、物性評価等をした。この様な実体験は教科書だけでは理解出来ない事も分り、社会に出てからも非常に役立っている。

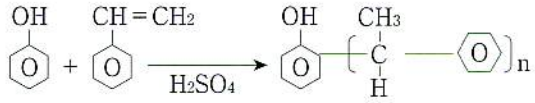
同研究室の他のグループはソルビトールにエチレンオキサイドを付加させノニオン系界面活性剤を合成し、エチレンオキサイドの付加モル数と洗浄力の実験をしていた。

この様に在学中に他の研究にも興味を持ち知識を吸収しておくと実社会に出てから非常に役立つものです。

昭和35年日本社会は就職難の時代で、欧米からの輸入品が多く、市場は中国に似たものであり、教授の紹介で50名程の老化防止剤メーカーに就職し、技術センターに配属された。

社長が尊敬（小学校卒・独学で化学をマスターし工学博士・日本化学会会長）出来る人物であり、人生の手本とした。

最初のテーマはフェノールに酸触媒のもとでスチレンを反応しスチレン化フェノールを合成した。



更にエマルジョン化し、乳化重合法によるSBRの酸化防止作用を評価し、市場へのPR活動をした。それからは次々とモノ・ポリフェノール誘導体・モノ及びジアミン誘導体の劣化防止作用を研究する。他リターダー・ペプタイザー・加硫活性化剤・パーオキサイド架橋用共架橋剤・重合禁止剤等ゴム・樹脂添加剤も最盛期を向え12年在職中に従業員も500人に達した。

振り返ると殆どの製品が輸入品の置き換えであり、中小企業はスタート期は良いが、途中より特許でガードした自社開発製品を打出さなければならない。

昭和47年７月に予てより計画していたレジスト剤の開発のため、資本金400万でシンコー技研株式会社を創業し、ソニー井深大社長の創業理念に学び、“弊社は高度化技術の探求により、利益をあげ社員・ユーザーより魅力ある企業を目指して社会に貢献する”をモットーにした。

一部合成テーマを受託しながら感光性樹脂の試作合成をジアド・アジド等で150種試み、それから発生する化合物にも打ち込んだ。

創業期は４～５人でスタートしたが、小田原工場設立（800坪）し、資本金2000万円とした。

15年後、神奈川県工業団地である山北に1200坪の工場用地を求め平成14年１月に稼動させた。

政府の技術対策である経営革新法・創造法に従って運営を計り、技術系社員が殆どでマスター、ドクター含めて37名であり、10億円／年の販売額のもと産・学官共同研究も実施し更に更新する様、ISO・9001／2000を３事業部で認証を受け、品質方針の確立もすすめている。

山北研究所　内部

最近のテーマは昔の化合物は殆どなく、アジアの低賃金層に移っている。

取組むテーマは一山も二山も越えなければ解決出来ない。ゼロよりスタートし、調査・研究・試作して立ち上げなければならない。

ポリアミド・ポリイミド・ポリアミドイミド等重合あり、液晶・有機EL及び中間体・乳化・再結晶化と複雑多岐に渡っており、分子設計した化合物の合成も試みている。

この様なテーマで化学系大学４年卒業者に望むことは高校化学及び受験程度の知識は必ず身につけておくこと、会社に入り経験を積むにつれ知恵が出て来ます。

早く、自分の方向を決め、フリーター、ニートにならず他国に負けず現代社会へ貢献出来る一人になって欲しい。

それ故、本大学は自分の志を貫くのに非常に恵まれています。

小田原工場　製造設備

Introduce

講演

一．日本ゴム協会「ゴム副資材10講」1969
二．東京電機大学「ファインケミカルの開発」1991
三．21世紀研究会「これからの中小企業経営」1993
四．神奈川大学「ポリマー用劣化防止剤の作用」1995,1998
五．中国像校学会「樹脂用機能改質剤及び反応性表面処理剤」
六．工学院大学「生き残りをかけた中小企業と求める人財」2005

新技術新製品助成

一．中小企業ベンチャ振興基金（H10）「超滑水剤の開発」
二．東京都中小企業創造事業活動認定企業／11労経振工支第270号「超滑性の開発」
三．同上　／９労経振工支第687号「スタドレスタイヤースリップ・スキッド防止剤」

所属外部団体

・東京都商工会議所
・東京都異業種交流会
・化学技術懇話会
・中小企業ベンチャ振興会
・日本ゴム協会
・日本表面学会

今こそ上昇に転じねばならぬる時

平成13年東京都議会議員選挙　初出馬・初当選
現　在　都議会警察・消防委員長として都政改革に邁進中
串田　克巳

くしだ　かつみ
串田　克巳
昭和27年12月21日生

学歴・職歴

1971年３月に工学院大学高等学校を卒業する。
工学院大学工業化学科中退
東京都議会議員秘書、八王子市消防団第九分団副分団長、衆議院議員第一秘書
2001年（平成13年）東京都議会議員選挙　初出馬・初当選
現　在　都議会警察・消防委員長として都政改革に邁進中

私は現在、都議会議員として７年目をむかえております。都議会議場は母校である工学院大学の新宿キャンパスから目と鼻の先にある東京都庁の一角にあります。この西新宿のエリアは、日本の摩天楼とも言える高層建築物の並ぶ近代都市です。その時々の最高水準の技術を駆使して立てられたビル群は一つひとつが個性的でその建築年代を代表する風格を感じます。

さて、今の社会情勢を省みますと、バブル経済の崩壊後の不況期から低成長ながらも計器が上向いたといわれて数年を経ましたが、地域格差や所得格差など、なかなか庶民が景気上昇という実感を持てない状況が続いております。また、今まで日本の高度成長を支えてきた団塊の世代が企業などの第一線から引退され、日本の伝統や技術などをうまく継承できるのか、労働力の質が低下するのではないかなど、先輩方の後継に対する不安が叫ばれております。さらには、少子高齢社会がじわじわと始まっており、政治に対するニーズはより一層の高まりを見せています。

このような政治へのニーズを捉え、今後どのような社会づくりをしていくのかについて、少し意見を述べさせていただきます。昨年暮れ、東京都が中長期的視野での行政ビジョンを「十年後の東京」という形で発表しましたが、その中では、みどりの創出、道路ネットワークの整備、環境負荷の少ない都市づくり、災害に強い都市づくり、超高齢社会の都市モデルの創造など八つの目標が掲げられており、21世紀の都市モデルを目指すものとなっています。以下、具体例をいくつか紹介します。

まず、「三環状道路の整備」です。東京の弱点でもある交通渋滞を解消するために、道路ネットワークの整備が必要とされていますが、中でも首都高速中央環状線、東京外郭環状道路、首都圏中央連絡自動車道という主要環状道路を三環状道路と位置づけ、この整備を促進することで東京での渋滞をゼロにしようというものです。渋滞を解消することで、年間３兆円以上といわれる経済損失や排ガスによる環境負荷などを解消します。10年後には、現在35％程度の三環状道路の整備率を90％にまで高めようという目標を掲げています。

二つ目は、「世界一の温暖化対策で子供たちに豊かな環境を引き継ぐ」です。「カーボンマイナス東京10年プロジェクト」として、日本の持つ世界最高水準の省エネ技術の活用や学校の校庭の芝生化をはじめとしたあらゆる都市空間の緑化推進など、官民を上げて東京全体で取り組む計画です。

三つ目は、「地震がこわくない東京をつくる」です。今年も新潟県中越沖地震が発生し、痛ましくも多くの被害が出ていますが、同規模の地震が東京を襲った場合、被害の規模は桁が違うはずです。いつ起こるかわからない震災に備えるためには、木造建築物の密集地域の不燃化やマンションなどに加え、個人住宅の耐震化も一日も早く進める必要があります。震災被害の半

減を目指し、向こう十年で都内の小学校や病院を100%、住宅の90%以上の耐震化を行う目標です。

四つ目は、「お年寄りも子どもも、みんながいきいき暮らせる東京」です。超高齢社会が進行する中、高齢者の８割は介護を必要としない元気な方です。そのような高齢者の皆さんがいきいき働ける環境を整えたり、認知症予防・治療の研究開発を促進し、ケアが必要な高齢者を減少させる、また一方でセイフティネットを充実させて誰でも安心して老後を迎えられる社会をつくるというものです。

このほかにも「東京発の医療大改革」、「ユニバーサルデザインのまちづくり」など、日本の最先端技術の枠を集めて、世界をリードする近未来都市を創出しようというビジョンです。このまま放っておけば、急ピッチで進む高齢化、アジア諸国の台頭による日本の相対的な地位の低下による活力の減少、地球環境の悪化などが待ったなしで進行してきます。それに歯止めをかけ、逆に上昇に転じていく、そのためにもこれからの10年が正念場です。

本学の本分である工学の技術は、今まで日本社会を支え、世界の中の日本の確固たる地位を築いてきました。これからの日本の未来にも当然ながら大きく寄与していくものであり、OBの皆様、在学生の皆様のますますのご清栄に期待をこめまして、締めくくりとさせていただきます。

「住まいづくり」と共に生きる

株式会社　宮下一級建築士事務所
代表取締役
宮下　登久子

みやした　とくこ
宮下　登久子

学歴・職歴
1961年　工学院大学専修学校建築科卒業
1977年　一級建築士登録
1976年　コスガインスティチュートオブインテリアデザイン専攻科卒業
1988年　インテリアプランナー登録
1996年　宅地建物取引主任者登録
その他　平成17年運転免許センター試験車車庫増築工事　千葉県知事賞受賞

ＨＰ
http://www.miyashita-sumai.com

今年の正月、建築家フランク・ロイド・ライトの自邸を訪れた。彼が晩年を過ごしたという「冬の家とスタジオ」は、白い砂丘地帯に石と木で建てられた閑静な佇であった。ガイドの説明に「1959年の死に至るまで、彼がタリアセンの改修・改変・拡張に手をつけずに一年が過ぎることはなかった。それは依頼された仕事では欲しいままに楽しむことのできなかった贅沢である。この点においてそれは、疑いなくライトの最も個人的な建築作品であり、それと比肩できるのは、このアリゾナ州スコッツディールの冬の家とスタジオの他にない」(GAトラベラー004より)

戸建住宅の設計・施工を業とする私は大いに共鳴できた。つい30年前まで日本の木造住宅建築は、主流が伝統工法で大工が構造材を刻み造作材の加工もしていて、軽微な変更や追加は建築中もできた。ところが近年では木組はプレカットで構造材は集成、造作や建具は印刷シート貼りの新素材で変更等の難しいもので造られている。そこにきて、品格法にシックハウス対策法。姉歯事件に端を発した基準法に於ける確認変更の規制、つぎつぎと泥縄式で施行される法規制にはつくる意味を疎かにしていないかが問われる。

住宅は男性に比べ女性の方が多く使い関心度も高い。ところが女性にはできた形を見て理解し、気付くといった点があり、プレゼンテーションのビジュアル化は進んでも建築中にひとつやふたつの不満や追加は出る。叶えられるとすべては喜びと化し、逆に説得され諦めさせられると、些細なことたりとも建物全体に及んで不信感となる。すべてではないが女性特有のキーポイントである。

15年前迄、私はサラリーマン。卒業後４年間程先輩の設計事務所で働いた後、「住宅」に絞って携って行きたいと決意し、この道ひと筋に今もつくり続けている。その間には、結婚・二児の出産で、仕事に加え育児と主婦業もこなさなければならない時期もあった。ふり返ると、風邪で熱のある子を家に残し出勤しなければならなかったこと、具合が悪いのを知りつつ保育園に

預けたこと。綱渡り式の日々ではあったが、後の住いづくりには大いに役立ってくれた。

私の全盛期は昭和50年代いわゆる住宅ブームの時代であった。顧客ニーズは多様化・高級化へと移行。デザイン指向も本格化し、知識のない私は開校して間もないインテリアデザインスクールで2年間学んだ。色・形・テキスタイルのコーディネートは、卒業を待ち兼ねほとんどが私の担当となった。仕事上必要で学んだことにもうひとつ「話し方教室」へ週1回の3年間がある。話し手・聞き手の分析や配慮といった知識は、プランニングのインフォームドコンセントや作業に於けるチームワークづくりに必要不可欠であった。

独立へのきっかけは子供達が無事成長していっていること、管理職・役員となったこと。

利益追求の立場を離れ、かねてよりの夢、女性建築士として「住宅」をつくる。スタートでは設計事務所と、建設業を同時に開設した。以来15年間新築は少なくて、増改築が主体で事業を営んでいる。近年の新建材にはついて行けない部分もあって、板材以外ムク材仕様の築30年前後の住宅は私のポリシーと合っていて、増改築で関わっていられることに満足している。ムク材は多少の風通しの悪さや湿気・結露・雨水をクリアして役目を果たす。反面合板はその点に弱く数年でも腐朽に至ることがある。

士法の改正・専攻建築士制度と建築の分業化は進むもオールマイティな知識の探求に心がけ法規制にめげず、日本人の心根に息づいている「木」への愛着や暮らし重視でこれからも私は住まいをつくっていく。偉大なる、フランク・ロイド・ライトですら建築での贅沢は許されなかったのだ。

旭山動物園にて

日本電気株式会社
パートナービジネス推進本部長
石井　正則

石井（いしい）　正則（まさのり）

学歴・職歴
昭和58年度　電子工学科情報コース卒業

参考文献
・「旭山動物園」革命
　—夢を実現した復活プロジェクト”
　著者：小菅正夫
　発行所：株式会社角川書店

はじめに

ある切っ掛けで、“「旭山動物園」革命—夢を実現した復活プロジェクト”という本に出会いました。その本を読み進めるうちに、現場の新発想で困難を乗り越え変貌した組織のあり方（成功事例）を強く感じ、興味がさらに深まり旭山動物園を訪れました。

日本の最北端にある旭山動物園（写真１）

一般的に動物園に行く機会は、人生のうち３回あると言われているそうです。一回目は、自分が子供の時に親に連れられて。二回目は、自分が親になったとき子供を連れて。三回目は、自分がおじいちゃん、おばあちゃんになったときに孫と一緒に。自分も一回目、二回目は経験して、三回目に行けるのを楽しみにしている気がします。旭山動物園は、日本最北端に立地（函館本線旭川駅よりバス40分）した動物園ですので、今までなかなか行く機会がありませんでした。

傾斜を利用した三次元で見せる展示

動物園の正門を入ると上り傾斜があり、その途中にペンギン館（入口が坂下、出口が坂上）があります。薄暗い通りを抜けると、筒状の通路の左右＆上方をペンギンが羽を広げて猛スピードで飛び回っていました。（写真２）まさに海中の鳥。ペンギンの水泡が綺麗に見えるほど鮮明でした。階段を少し上がると、通路の窓から水面のペンギンが優雅に見え、さらに上に昇ると、陸上ののんびりしたペンギンが見られます。まさに、自然動物の静と動の両方を一度に見せてくれます。また、猿山では、地上12メートルの天辺側から見下ろす作りは、他の動物園と同じ様ですが、スロープを降りていくと途中で覗き穴があり、猿が身近に見え、スロープの下に達すると、金網越しで地上の猿が見られます。風通しも良く、快適にサルが暮らしている様子が伺えます。どちらの建物も、建築には不向きな傾斜をうまく利用して、色々な角度から動物を見せる工夫が沢山入っていました。

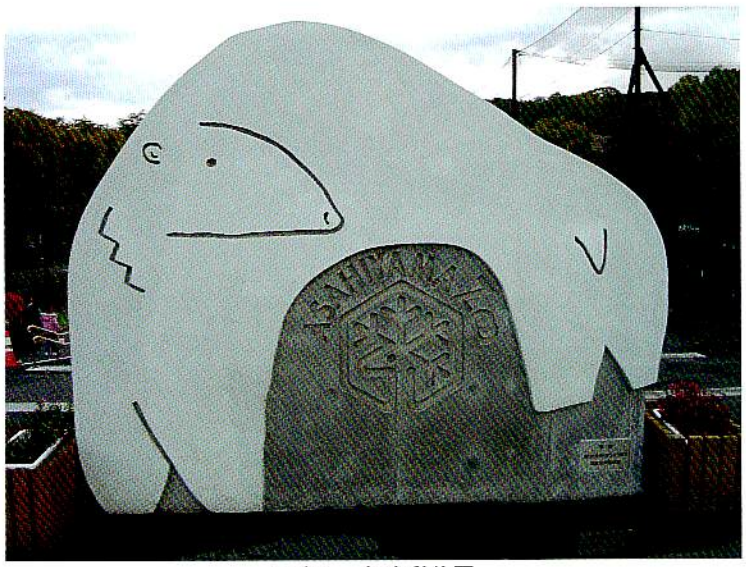


写真１　旭山動物園

写真２　ペンギン

なによりも動物の習性を知り尽くしたプロが設計

また、アザラシ館でも水中の筒状の通路をくぐる愛くるしい顔のアザラシの姿が見られ、入園者の歓声をあびていました。あの筒状の通路を通る仕草は、人間に興味を示し見に来る自然の仕草であり、えさ等で仕込んだ訳ではないそうです。ホッキョクグマ館でも、見ている人が好物のオットセイの頭に見える様に設計されているそうで、自然に水に飛び込む姿は迫力満点でした。まさに動物の習性を利用して自然のままの行動を見せる設計となっています。さらに、オランウータン館では、地上17mの高さの二本の塔の間（ロープ13m）をわたらせるもぐもぐタイム（餌）も迫力があります。人の常識では一見危険な企画にも思え、反対が多かったとのことですが、「樹上生活し、握力400Kg以上を持つオランウータン」が落ちることは無いとの飼育員の確信の元で作られた施設だそうです。

アイデアいっぱいの施設

また、猛獣館でも、日中寝ている猛獣の習性を理解し、風通しの良い高いところで寝るヒョウを天井の高さ位の金網から絨毯のように見せる施設や、ガラス越し数センチまで近づき、鼻の穴まで目の前で見られるライオン（写真３）の施設も迫力満点です。ネコ科が爪を大切にする習性を踏まえて、虎の金網を細くしても問題ないことを理解し、縦：６ミリ、横：15ミリの金網で見やすく設計したことも、動物を知り尽くしたプロだからできることだと思います。当日は、サイが食べるかもしれない物を入園者に準備させて実験する企画も行っていました。飼育員でなければ経験できないユーモアたっぷりの企画だと思います（ちなみにサイは柑橘類を食べないそうです）

暖かさを感じる手書きの看板

また、各動物の館には、飼育員の手書きの動物紹介があり、飼育員でなければ感じられないことを、一生懸命に入園者へ伝えようという熱意が伝わってきます。特に、動物の死を伝える喪中の掲示からは、命の大切さがよく伝わってきました。

おわりに

旭山動物園の成功は、お客様の要求（ニーズ）を的確につかむ大切さと共に、その要求に対応できるプロの技術（シーズ）と熱意の大切さを改めて考えさせてくれる良い例だと思います。

現場の人が自ら考え、実現させた環境は、本で読んでも感じ取れない程、すばらしいものでした。先ずは、自分の目で見て感じることが、何事にも必要かと思います。自分の持つ常識から抜け出して、新しい発想で考えることの大切さを思い出させてくれた良い経験でした。動物園へ行く三回目の機会に、また是非旭山動物園へ行きたいと思います。

写真３　ライオン

北郷薫先生を偲んで

理事長　**大橋　秀雄**

2003年4月　理事長退任講演会

北郷薫先生は、昨年８月３日、東大病院で肺炎のため逝去されました。入院される一週間ほど前、ご家族の制止に耳もかさずにタクシーを呼び、新宿校舎に向かわれたと伺っております。大学の廊下に並ぶ椅子に腰を下ろして、じっとあたりを見つめていらっしゃるお姿を拝見したと、ある職員から聞きました。生涯愛し続けた学園に、最後のお別れに来られたのでしょう。

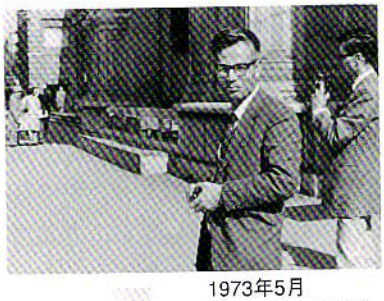
先生が学園と共にされた58年のご足跡は、恩師の野口尚一初代学長を支えて助教授、教授として大学の礎を固められた最初の17年間、母校の東大機械工学科に招かれて教授を務めながら本学非常勤講師としてご指導いただいた17年間、東大停年後本学にお戻りになり、学長９年、理事長10年の在任を含めて先頭に立って本学園を牽引していただいた24年間に大きく分けられます。

本学に再度戻られた直後、学園の未来を見据えて教学分科会委員長として大学の将来像を提言されました。その延長線上にある新宿校地の再開発事業には、先生が不退転の決意で臨まれ、新宿新都心の一角に世界に誇る都心型大学を築いていただきました。そのご功績に、心からお礼を申し上げます。

北郷先生は寡黙にして自らに厳しく、他人に対しては寛容な方でした。口先で語るよりは一途に結果を追求し、また信じることを曲げることはありませんでした。お家柄でしょうか、まさに古武士の面影が彷彿とします。昨年９月15日には、先生のお人柄を偲んで卒業生、教職員、ご友人などが大勢集まり、先生の思い出が詰まった新宿校舎でご遺族をお招きして偲ぶ会を開きました。思い出を新たにしつつ、一同でご冥福を祈りました。

八王子キャンパスには、ご遺族のお申し出を受けて、紅白の梅の木がたくさん植樹されました。薫り高い梅の花を通して、学園の将来を末永く見守っていただきます。

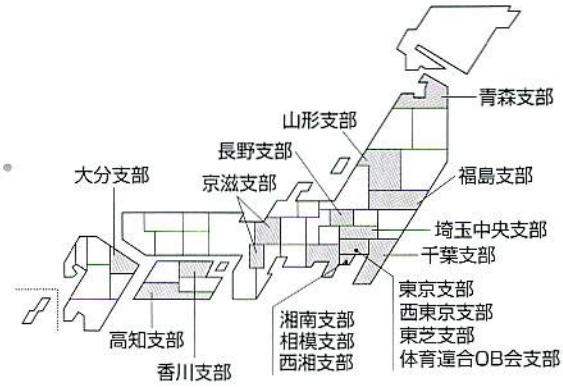
1989年7月
旧校舎学長室で



1973年5月
チューリッヒにて

2000年4月
工学院大学野球部OB会

支部だより



青森県支部

嶋脇芳勝　青森県支部・支部長

19年度青森県支部総会（1泊2日）を三戸八戸地区担当で、9月、五戸町まきば温泉旅館で開催しました。話題提供として「五戸町のあれこれ」五戸商工会菊池瑞穂氏の講演があり、次回総会開催地を下北地区に決定しました。懇親会は県内外から27名が参加され、小生の「俊芳丸」で捕獲した鮭の鍋料理や、全国的に有名な五戸町の馬刺等を食べ、夜遅くまで話がはずみました。

今回総会案内、返信葉書「一言なんでも欄」に、専修学校昭和31年卒Yさんから次の記述があった。

「この総会案内書を頂きまして、昔、淀橋浄水場付近を歩いている自分の姿が、ふと浮かんできました。色々な事情で支部総会に参加出来ない方々が多いと思います。それでも、この一通の案内書から学校への、つながりを感じています。いつも不参加の人も無駄じゃないので、切り捨てずにお願いします」

今まで、案内状を出しても返信反応の無い方が半数程度ありましたが、今回のこのコメントから、出席されない方へも必要である、との思いを強くしました。現在、把握している会員数は119名です。今後も全会員にこのメッセージを送り続けたい、と意を強くしているところです。

山形県支部

鈴木公章　山形県支部・支部長

当支部の総会は、以前から毎年6月の最後の土曜日に予定されており、今年は6月30日山形駅前のホテルキャッスルにて開催されました。

本部からの役員の出席はありませんでしたが、送付された資料等で会議を行いました。

今年の参加者は例年より多く14名でした。最年長は昭和34年卒業、最年少が平成9年卒業という具合で、参加された皆さんの話から工学院の40年の歴史が伺うことが出来ました。特に平成の卒業生が参加してくれたこの機会を大切に、若い会員の拡大に努めたいと思っております。

また、前会長の平吹和之氏は建築業界の発展に大きく貢献したことで、このほど国土交通大臣表彰を受賞いたしました。

福島県支部

高村　劼　福島県支部・支部長

支部総会は平成19年11月岳温泉のホテル光雲閣にて開催されました。昨年はいわき、今年は県北方部が当番となり12名が参加しました。

総会の冒頭に昨年亡くなった副支部長、故本間秀武氏に黙とうをささげ、ご冥福をお祈りいたしました。懇親会では学生時代の思い出話で盛り上がり、2次会も夜がふけるのも忘れて全員が楽しんでいました。

なお、本会は広範囲地域のため、例年県内各方部が1泊2日の持ち回りで開催しております。

平成20年10月に校友会全国大会が沖縄で開催されます。これを機会に支部総会を沖縄で開催を考えております。開催にあたり、県内会員の多数の参加をお待ちいたします。

千葉県支部

内山　太　千葉県支部・支部長

平成19年1月西千葉駅近くの「みどり寿司」にて、新年会を開催。支部の活動について話し合い、役職員名簿に多くの方が記載されているが、実際に活動していただける人が

少ないのではないか、又、依嘱してから相当の年月が過ぎているので、役員受託の返事をいただいて、現在の役員を依嘱いたしました。

6月17日大学会議室（28階）にて支部総会が開催され、本部、近隣支部から多数の来賓がありました。第2部は、工学院大学常務理事　中澤宣也教授による「新しい大学を目ざして」の御講演をいただきました。今後の大学について認識を新にし、又、将来に展望があり、良い内容と大好評でした。第3部は懇親会を行いました。

11月ゴルフ同好会を、11月熱海で旅行同好会を実施、和気あいあいで楽しい集いでありました。

埼玉県中央支部

黒澤兵夫　埼玉県中央支部・支部長

本支部は、会員との相互交流として主に次の活動を行っています。

（1）総会：6月3日with you さいたま、において開催されました。

事業報告、決算報告、監査報告、事業計画及び事業予算等について審議し、承認されました。

（2）講演会：6月3日総会時

・テーマ：「景気動向の変化と中小企業のこれから」

・講師：埼玉りそな銀行代表取締役兼常務執行役員　上條正仁氏

・内容：バブル経済の破綻から何を学ぶか。埼玉県の経済規模は日本全国でベスト5である。事業所数は減少が続く。

（3）役員会：約10名前後の役員が集まり、イベント企画、会員の消息等の情報収集を行っている。

（4）近隣支部との交流と情報交換を行い、支部活性化を検討している。

東京支部

若林勝司　東京支部・支部長

昨年は東京支部、設立15周年を迎えることが出来ました。振り返れば休眠状態にあった都内、都下各支部の衰退を憂い、当時の校友会組織部の御発声で、強化、再生が図られました。皆様のご支援ご協力を持ちまして、サークル活動を始め、さまざまな活動と交流を進めることが出来ました。特に、工学院大学後援会東京支部との交流は、今後も大いに推進していきたいと考えております。

15周年支部総会につきましては、本学の開祖であり、東京府知事、東京帝国大学初代総長を歴任された渡辺洪基先生と、ご息女の渡辺玉花先生を偲び、大橋理事長と、青山長谷寺後堂、金原東英御老師をお招きして、特別後援会と玉花先生の遺作である学園保管の源氏物語をテーマにした日本画のお披露目も併せて行いました。

支部活動として、囲碁・将棋、俳句、写真、ゴルフサークル等があります。

西東京支部

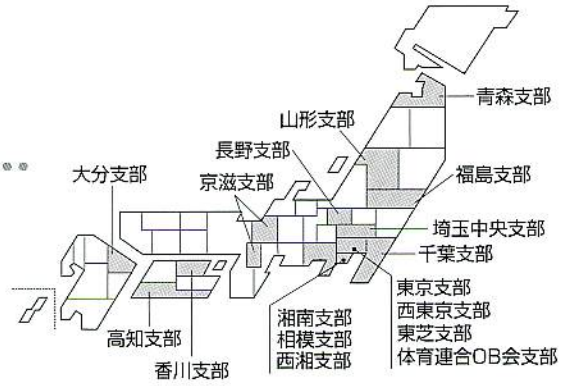
青木俊之　西東京支部・支部長

19年度は2007年6月9日の定例総会から始まりました。（校友会のホームページで紹介されています）。

その後の活動は、8月の14回工学院大学理科教室に参加しました。

9月9日、支部恒例のサントリービール武蔵野工場見学を、暑気払いを兼ねて21名参加で実施、暑さを吹き飛ばしました。

10月、大学の吹奏楽部の28回定期演奏会に招待され、慣例のフラワー



スタンドを寄贈しまして、素晴らしい音楽に聞きほれました。

全国大会案内状送付先名簿を提出、一名でも多く参加者が出るようPR。

近隣支部の総会に支部長（又は副支部長）が出席、１月は新年会を兼ねて八王子の酒造見学を予定しています。

湘南支部

志村　豊　湘南支部・支部長

神奈川県には５支部があり、毎年一度、各支部総会・合同懇親会を行っております。2007年度は湘南支部が幹事支部として、７月７日に江の島の岩本楼で開催されました。（全出席者数:61名、湘南支部から18名参加。）

湘南地区には、15大学OB会との交流・親睦会があります。今年も藤沢のグランドホテル湘南で９月22日に開催されました。校友会は縦のつながり、他大学のOB会とは、地域の横のつながりです。（15大学の全出席者数：164名、湘南支部から15名参加。）

毎年、講演会を開催しております。講師は、各分野の専門家である、当支部の校友が担当します。今年は、12月１日に藤沢産業センターで、「第２回－感性工学の実践」、「江の島と展望灯台」、「湘南の歴史と文化」と題して開催されました。

相模支部

谷政美　相模支部・支部長

今年は支部活動の活性化を画り、継続的な発展を期して、形を整える事に努めました。

運営は「組織的に、分かり易く、クリーンであること」をモットーとしました。役員と会員の皆様の協力を得て、具体的には

①運営の鏡となる「会則」の制定。

②活動状況を会員に周知するため、校友会のＨＰ「お知らせボード」に掲載を開始。

③事前に活動計画（新年会・総会・凧揚）を明確にし、計画的に積極的に参画を促す。・初参加者には、みんなで声をかける。・不参加者には、必ず報告書を送付する。

④会員の実態を把握するため、年代別に順次総会案内を送付し、名簿を整備する。

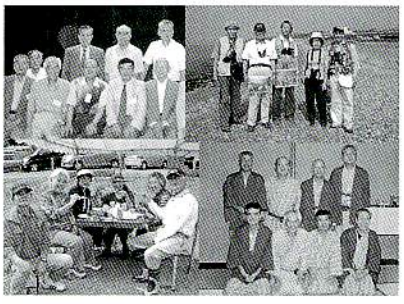
などの成果が得られたと考えます。

西湘支部

小早川庸行　西湘支部・支部長

西湘支部は、神奈川県西部に位置し、丹沢山、小田原城、箱根等観光に恵まれた地域で、これらの自然を相手にした支部活動をしています。

19年度は、７月に総会を江ノ島で県下５支部合同の懇親会の時に実施。同じく７月には相模湾に面した大磯海岸で、アオバトの海水を飲む姿の観察会を行いました。海水を飲む鳩の観察できるこの海岸は全国でも希少なポイントで、講師は西湘支部会員のインストラクタの方です。



10月に丹沢山の清流で、放流されたマス、ヤマメ、イワナを釣り上げ…川原で姿焼きして賞味しました。

11月は湯河原温泉に浸かり、一泊で忘年会を実施し、12月は二宮町の高台までハイキングし、下山後支部会員所有のみかん畑でみかん狩りを計画しています。

毎年、支部会員が関係する企業の見学会を実施しています。また、地元地域へのボランテイア活動として、芝桜の名所の土手の清掃活動を昨年度から取り入れました。

長野県支部

鳥羽栄治　長野県支部・支部長

長野県は日本のほぼ中央に位置し、南北に細長く山国であるため校友が一堂に会する事は容易なことではありません。

ここ数年間、総会を開いておりませんでした。今年４月に総会を開く為に多くの会員に連絡したのですが、13人しか集まらず急遽親睦会に変更し席を設けました。親睦会では会計、活動報告、校友の近況報告等を実施しております。会費は主に通信費や祝い事や役員の交通費等に使用し、親睦会の飲食代はその都度会費を徴収して賄っております。祝い事とは市長や町長選挙立候補者の陣中見舞い品や学会のフェローになられた方への記念品等です。

さらに、後援会の父母懇談会にも出席し、長野県内就職先情報等を伝える活動もしております。

京滋支部

伊藤　肇　京滋支部・支部長

京滋支部の活動は、支部の会員間の親睦を通して地域での学園の知名度アップ、学園の発展に寄与する目的で活動しています。

会員宅を持ち回り訪問して食事会、名所旧跡を訪ねて納涼祭、異業種懇談を兼ねた呑み会、12月初旬に忘年会を兼ねた支部総会などが主な内容です。京滋地区で学園の行事などが行われるときは会場へ激励訪問しています。また京都は北と南の幅が広く時間的な制約も有り参加者が限定されるのが難点です。

香川県支部

大西　要　香川県支部・支部長

香川県の支部は余り活発な支部と言えず、支部長として申し訳なく思っている。

兎に角、何とか活気のある支部を求めて、思索を練っているが、これといった、妙案がなく、現在に至っている。

以前になるが、香川県の高松で支部の会をした折に、四国四県の支部長も参加していただき、四県がお互いに切磋琢磨して会員の増加をさせる試みをしたことがある。しかし、この思索も決定打ではなかったようだ。

昨年、琴平の「紅梅亭」で中四国の後援会の会合に呼ばれた。建築家教授の講演があった後、懇親会があり、保護者が大学に対する思いに触れた。なんとか、学生たちに胸を張れるような支部活動を目指したい。

高知県支部

植田豊年　高知県支部・支部長

高知県支部は昭和47年に発足し、昭和の年代は３年に１回の割合で支部総会を開いておりましたが、それでは顔と名前が一致しないと言うことで、平成に入ってからは毎年開催し19年で23回になります。

初代は平田毅氏、２代目三輪伸太郎氏、現在私が３代目です。会員は約100名で運営しています。

この間毎年本部の方から講師として本学の教授、本部役員の方にお出で頂き講演をお願いしております。また四国内で行われますＥＶラリーの大学対抗戦のお世話をさせて頂いたりした事もありました。

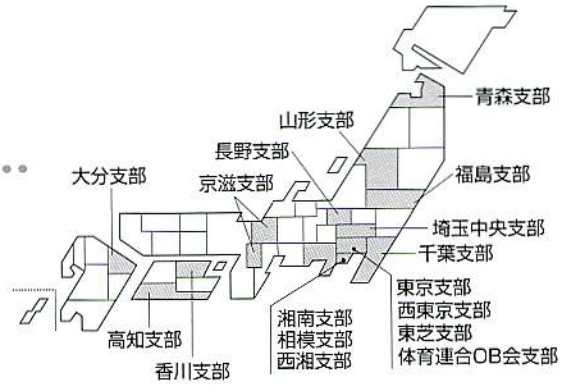
毎年６月最後の土曜日に支部総会を高知市で開いて旧交を温めています。本学学生が大会等で高知に来るときにはご一報ください。

大分県支部

本田信之　大分県支部・支部長

19年度支部総会を11月10日別府つるみ荘にて行いました。

出席者は本部からの谷口宗彦先生



を含め16人となりました。

例年は12～13人で同じメンバーでしたが、今年は新しい人も増え喜んでいます。新しい人が輪を広げ年々輪が広がることを期待しています。

総会では、全国支部長会の報告を行い、支部の活性化について意見を交わしました。

1．維持会費の納付協力
2．校友子息子女特別入試への斡旋協力
3．沖縄全国大会への参加協力
4．県内各高校への入試PR

特に4項については渡辺光治副支部長が精力的に県内を回って活動しております。

来年度も同じ時期に同じ場所で総会を行うことで、散会しました。

東芝支部

関戸　皎　東芝支部・顧問

支部活動の基本は、校友の親睦と本学の発展を図ることであると思う。

親睦とは飲食やスポーツ、工場見学会等を通じて、老若の校友と親しくなり、良い点を学び参加者に刺激を与え、相互の利益を図ろうとするものであり、また学校の発展とは、本学で学ぶための良い学生を多数集め、知識を学び、最終的には要望に沿った職業を得ることと考えている。

その目的として校友会活動は、結局は人材の育成にあるのではないでしょうか。東芝支部では、東芝に入社予定にある学生は勿論、入社している中堅、ベテラン組や東芝出身の教授まで参加を願い、毎年７月に親睦交流会を開催し、上下に拘らず自由のディスカッションをすることにしている。このような会を通じて一歩でも本学校友の人格育成に役立てれば良いと考えている。

体育会連合OB会支部

渡辺静雄　体育会連合OB会支部・支部長

体育会OB会は、1990年に体育会出身のOB有志により発足し、2004年校友会の支部として改めて仲間入りをしました。設立の目的は、体育会の育成、活性化への支援及びOB会員相互の親睦を図り併せて校友会、母校の発展に寄与することです。

その間、大学のクラブ活動の状況の様変わり、18歳人口の減少も加わり苦境に立たされております。受験生増部員増対策、活動環境の向上、休部の再生など学園連携部及び大学サイドと連携を取り進めています。具体的には、公募制推薦（資格優遇型）及び校友子女特別選抜入試制度の積極推進及び付属高校の運動部員へのPRなど、来る2012年の125周年に向け体育会各部の底上げ対策、また目玉クラブつくりなど工学院大学の名声を上げ大学のイメージアップが図れることを願って活動しております。なお連合OB会は校友会の一支部であると共に、地区支部の会員であり、同窓会員ですから、本部、地区の行事にも積極的に参加するよう心掛けておりますのでよろしくお願いいたします。

〔企画・広報部より〕

今回は支部だよりをいただいた17支部全部を掲載いたしましたが、誌面の都合で原稿の一部を編集カットさせていただきました。また各支部長の顔写真を含め掲載できない写真もありましたが、ご了解のほど願います。なお校友会ホームページ（http://www.kogakuin.or.jp）の方へ原文と共に掲載していますので是非ご覧ください。

学園創立125周年記念事業がスタートします。

学校法人工学院大学　理事・事務局長　高橋　政雄

本学園は、25年の節目ごとに、記念式典を挙行し、記念誌を刊行してきています。それは、節目ごとに、創設から現在までの足跡を振り返り、未来に向けて力強く歩き出す覚悟を固める契機とするという思いがあってのことです。
その節目である125周年を、平成24（2012）年に迎えます。

125周年の記念事業につきましては、校友会及び同窓会の役員をはじめ学園関係者と協議を重ねてまいりました。ようやくその骨子がまとまり、校友会報に小冊子を織り込ませていただく運びとなりました。総事業費50億円、そのうち15億円は募金をもってまかなう計画です。

125周年の記念事業を策定する過程で、過去を振り返って確認いたしました。平たんな道ばかりではなく、幾多の苦難に遭遇しております。最初は明治29年に火災で校舎を全焼したこと、次に大正12年の関東大震災で校舎が全焼したこと、さらに昭和20年の戦災に見舞われたことです。学園に襲い掛かった不慮の災害を乗り越え、生き延び発展を続けられた、その原動力の一つは、在校生の熱意、卒業生の母校に寄せる愛情であります。
工学院大学が誕生（昭和24年）する２年前のこと。財政難や教授陣の確保が困難という理由から、理事会は大学昇格を断念せざるを得ないと判断することになりました。これを知った生徒たちは、専門学校を大学に昇格させるために理事会と戦う、という悲壮な決意をもって立ち上がりました。工学院同窓会もそれに呼応し、大きなうねりとなり、ついに理事会を突き動かし、学園関係者が力を合わせて大学開設を勝ち取ることができました。
このように、学園の生成発展には、在校生、卒業生の熱い思いが籠っています。

さて、この4月から活動を開始する、学園創立125周年記念事業を、全国６万人の学園の卒業生の皆様によろこんで参加いただける一大記念イベントとし、学園と卒業生の結びつきを強化する契機にしたいと考えております。あたたかいご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
それでは、以下に、事業の概要をお知らせいたします。

１．教育研究環境整備事業

(1)（仮称）125周年記念総合教育棟建設（研究環境整備を含む）

最初に考えられたのは、総合教育棟の建設です。最新の教育機器を配備した、現在の１．２号館の規模を下回らない総合的な教育棟を125周年記念棟として完成したいと考えております。

(2)（仮称）国際交流会館十学生寮の建設

本学は、教育目標に、グローバルエンジニアの育成を掲げています。国際交流会館を設置し、さらに充実した教育を展開します。また、これには学生寮を併設し、居ながらにして国際感覚を養うことができる環境を造ります。

２．学生・生徒の自主的活動支援事業

(1)「創造活動支援室」（ロボコン、鳥人間、各種自動車レース、人工衛星等）における学生活動の支援

本学は、学生の自主的活動の支援に力を入れ、学生たちが各分野でめざましい成果をあげています。平成19年度に創設した「創造活動支援室」を中心に、学生の創造活動の支援を強化します。

(2) 学生・生徒の海外留学等支援奨学金、外国人留学生支援奨学金の創設

本学園は、エステック情報ビルからの収益を奨学金の原資にあて、大学院生、学部学生、中学校・高等学校生徒に給付しています。これに、留学支援を目的とする奨学金を加え、学生生徒の支援をさらに強化します。

(3) 学生・生徒のクラブ活動支援

学生・生徒のクラブ活動につきましては、校費からの支援に加えて、ご父母並びに卒業生の団体からのご寄附をあてています。この機会に、さらに充実させます。

３．地域・社会貢献事業

(1) 理科教室等の主要都市での開催

八王子キャンパスで、毎年夏に開催している理科教室は、例年7,000人を超える参加者があり、規模からして日本最大、内容の豊富さでも他を引き離しています。この理科教室等の一部を、校友会、後援会等と連携して主要都市で開催し、この活動を通じて、本学の認知度を高めます。

(2) 記念講演会等の主要都市での開催

125周年を記念して全国各地で講演会を開催し、本学の活動を広く紹介していきます。その開催にあたっては、校友会や大学後援会の各支部にご協力いただき、両者と学園との絆をさらに強固なものにしていきたいと考えます。

４．125年記念学園史編纂（読物編、資料編、工手学校以来の専門学校の歴史・資料の保存）

読み物編と資料編に分けて、記念誌を刊行します。また、工手学校以来の専門学校の関係資料の保存、展示を考えます。

５．125周年記念講演会・式典

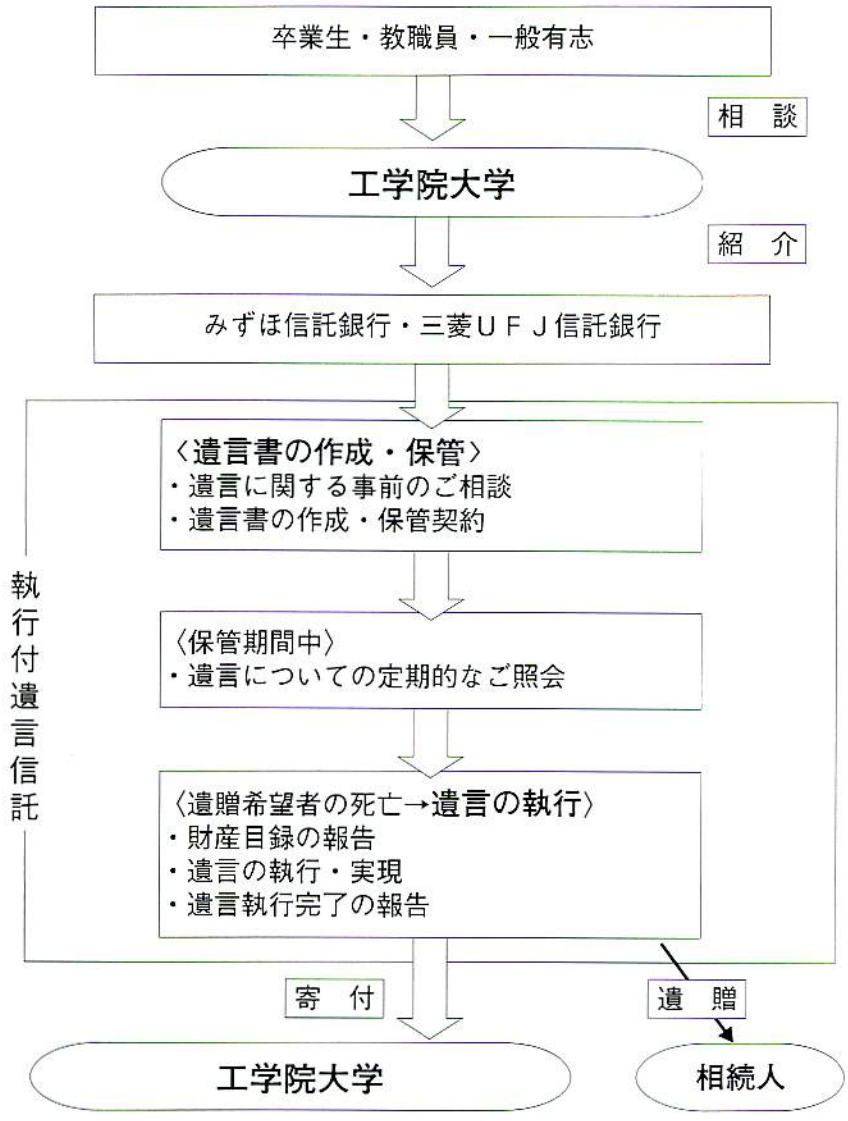
以　上

遺贈による寄付制度にご協力をお願いします。

生涯生活設計を考えるうえで相続は重要な関心事の一つであります。

ご自分の財産の一部を本学へ寄付することで、本学の発展に貢献したいとお考えの方の便宜を図るため、信託銀行２行（みずほ信託銀行・三菱ＵＦＪ信託銀行）と提携し「遺贈による寄付制度」を設けております。遺言は相続争いを防ぐ予防的手段だけでなく、積極的にご自分の願望を実現する手段でもあります。

卒業生をはじめ多くの方々に、本制度への理解とご利用をお願い致します。本制度にご関心がおありの方は、下記創立125周年記念事業事務局までご連絡をお願い致します。



創立125周年記念事業事務局
TEL：03-3340-1449　　FAX：03-3345-0228

工学院大学　校友子女特別選抜入学試験を実施します！

工学院大学への入学を希望される校友の皆様の子女を対象にした特別選抜試験を2008年度より行っています。工学院大学校友会では、校友の皆さまの技術者への志、120年間技術者を育成してきた学園の建学の精神が、この選抜試験により次の世代にまで継承されることを大いに期待しております。本試験の概要、2008度入試結果は次のとおりですが、詳細につきましては必ず工学院大学アドミッションセンター入学課発行の募集要項（9月中旬から配付、無料）をご確認ください。

トピックス

2009年度より応用化学科、環境化学工学科、マテリアル科学科の3学科は再編され、応用化学科、環境エネルギー化学科の2学科となります。

出願資格

以下の①～③の要件をすべて満たしている方

①高等学校若しくは中等教育学校を卒業しているか、あるいは2009年3月卒業見込みの方、又は高校卒業者と同等以上の学力があると認められる方。

②本学園（大学・大学院・高等学校・中学校・専門学校およびこれらの前身の学校を含む）の卒業生・修了生の子、孫、甥、姪であること。

③全体の評定平均値が3.2以上である方。

2008年度校友子女特別選抜入学試験結果

学　部	学　科	募集人数	志願者数	合格者数
工学部 第1部	機械工学科	若干名	2	0
	機械システム工学科		1	1
	応用化学科		1	1
	環境化学工学科		1	1
	マテリアル科学科		0	0
	電気システム工学科		0	0
	情報通信工学科		0	0
	建築学科		7	5
	建築都市デザイン学科		1	1
情報学部	コンピュータ科学科		4	3
	情報デザイン学科		5	3
グローバルエンジニアリング学部	機械創造工学科		1	1

共　通　事　項

募集学部・学科・人数

学　部	学　科	募集人数
工学部 第1部	機械工学科	若干名
	機械システム工学科	
	応用化学科	
	環境エネルギー化学科	
	電気システム工学科	
	情報通信工学科	
	建築系学科 （建築学科、建築都市デザイン学科）	

学　部	学　科	募集人数
情報学部	コンピュータ科学科	若干名
	情報デザイン学科	
GE学部	機械創造工学科	

選考方法

書類審査、面接、基礎学力調査（数学、英語）

教員をなさっている卒業生・修了生

工学院大学教職課程からのお知らせ

御案内のように2009年度から教員免許更新制が実施されることとなりました。それに伴い、本学でも更新講習の開催準備をしております。詳細については改めて御案内いたしますが、卒業生・修了生の皆様にはぜひ本学での更新講習を受講いただくようお願い申し上げます。

この機会に本学卒業生・修了生で教員をされている皆様のネットワークを作りたいと存じます。卒業生・修了生で教員をなさっている皆様、学校種（小、中、高、特別支援等）や採用形態（常勤・非常勤等）にかかわらず、次の事項をお知らせくださるようお願い申し上げます。また友人、先輩、同僚など同窓生で教員をされている方をご存じの場合も合わせてお知らせ下さい。

1）お名前、2）卒業学科（修了課程）、3）卒業（修了）年月、4）取得免許状、5）勤務校、6）担当教科、7）役職、8）資料等送付先（自宅住所または勤務先所在地）、9）電話番号、10）FAX番号、11）メールアドレス

工学院大学　校友教諭在職高校特別推薦入学試験を実施します！

2009年度入試から、工学院大学を卒業または修了された校友で、高等学校の教諭として勤められている場合、その勤務されている高等学校に、これまでの指定校推薦などとは別に推薦枠を設ける特別推薦入試を実施します。工学院大学校友会では、校友の皆様を通じたこの推薦試験により、学園の建学の精神を理解した意欲あふれる生徒の皆さんが入学されることを大いに期待しております。

本試験の概要は次の通りですが、ご関心のある校友の先生は是非とも下記、工学院大学アドミッションセンター入学課までご連絡ください。

推薦対象高校

工学院大学を卒業または修了後、5年以上経過した方が教諭として在職している高等学校を対象とします。

推薦人数枠

一高等学校あたり2名までとします。出願には当該高等学校長の推薦を必要とします。

推薦基準点

推薦基準点は設けません。

出願までの流れ

1）本入学試験の詳細問い合わせ
（当該教諭　⇒　アドミッションセンター）
2）募集要項送付　7月下旬
（アドミッションセンター　⇒　当該教諭）
3）出願　10月中旬
（受験者　⇒　アドミッションセンター）

出願資格

以下の①～③の要件をすべて満たしている方
①高等学校若しくは中等教育学校を2009年3月卒業見込みの方。
②工学院大学を卒業または修了し5年以上の専任高校教諭より人物、学力とも優れていると認められ、当該教諭在職高校の高等学校長から推薦を受けた方。
③本学の教育目的を充分理解した上、本学で学ぶことを強く希望する方。

共　通　事　項

試験日程

（1）出願期間：【郵　送】10月15日(水)～10月29日(水)
消印有効
【窓口※】10月15日(水)～10月30日(木)
※新宿校舎2階　入学SUPPORT　CENTERで受付けます。
（2）選考日　：11月8日（土）
（3）選考場所：工学院大学新宿校舎
（4）合格発表：11月15日（土）　郵送で通知します。

問い合わせ・募集要項請求先
〒163-8677　東京都新宿区西新宿1-24-2
工学院大学　アドミッションセンター入学課
ホームページ：http://www.kogakuin.ac.jp
TEL：03-3340-0130　FAX：03-3342-5304

の皆様、情報をお寄せください。

連絡は、郵便、FAX、メールのいずれでもけっこうです。
提供いただいた情報は教職課程として責任を持って管理し、大学としての資料送付と連絡にのみ利用し、それ以外での利用をしません。

※今後、教員になる予定の方のご連絡もお待ちしております。

＜連絡先＞
〒163-8677　東京都新宿区西新宿1-24-2
工学院大学新宿教務課教職担当（池田）
電話；03-3340-0884
FAX；03-3342-5304
e-mail；skyomu@kogakuin.ac.jp

校友会事務局からのお知らせ・お願い

◆ 維持協力会費納入のお願い

在学中に納入していただいている終身会費だけでは校友会の運営が難しくなってきております。また、社団法人格を有している工学院大学校友会としては、学園に対してもっと積極的な支援の姿勢を示す必要がありますが、それにもかかわらず、平成19年度の維持協力会費の実績は、住所判明者65,000名のうち約750名の方々から270万円の納入にとどまっておりますので、皆様方の更なるご協力をよろしくお願いいたします。

◆ E-mailアドレスをお持ちの方は是非お届け下さい

平成14年3月から会員に対してE-mailによる情報ネット発信を実施しており、現在、1,800名の登録があります。定期的に学園や校友会の情報を発信しておりますのでE-mailアドレスをお持ちの方（携帯電話は不可）、一度お届け後変更された方は同封の総会出席通知にご記入の上、投函下さいますようお願いいたします。なお、既に情報を受け取られている方は再登録の必要はありません。

◆ 工学院大学校友会STEC VISAカードのご案内

工学院大学校友会STEC VISAカードは、

1．㈳工学院大学校友会会員・在学生ならびに教職員の方と家族だけがお持ちいただけるエンブレムカードです（工学院大学校友会と三井住友カード㈱が提携発行する公認カード）。

2．会員の方がこのカードをお使いになると、その利用額に応じた提携手数料が還元金としてカード会社から校友会に入金され、学園援助費、学生・生徒活動の援助費の一部に充当されます。なお、カード使用に当たっては通常のクレジットカードと同じ手数料以外は一切負担となることはありませんので申し込み希望の方は同封の総会委任状の連絡欄に○印をつけてご返送下さい。この件でのお問い合わせは校友会事務局までお願いいたします。

TEL 03-3342-2064・03-3340-1649　FAX 03-3342-2035　E-mail jimu2@kogakuin.or.jp

◆ 今回から総会の出欠返信ハガキ・委任状のスタイルが変わりました！

従来は、ハガキでの返信となっておりましたが、同封点数を少なくし、目隠しシール等学園の負担になっているものをなくすためにおり込み封書式に変更を行いました。この変更により払い込み通知票の記入の手間がなくなり、金額のみの記入となります。会員の方々には封書になる分ハガキに比べ30円の負担増になりますが事情ご理解の上ご協力下さいますようにお願いいたします。

■ 法人役員の推薦

本年度は法人役員の改選次期にあたり、校友会から推薦の各役員について下記の通り決定いたしましたのでお知らせいたします。（敬称略）

◆ 次期校友選出法人評議員（H20.4.1～H23.3.31）

会長･会長推薦	長嶋 秀世	姫野 有文	
機械系同窓会	福田 忠彦	瀬戸川睦人	並木 光雄
応　化　会	若栗 徳男	都築登輝浩	若松 昭秀
電気電子情報同窓会	高田　貢	鷹野 一朗	軍司 俊彦
建築系学科同窓会	笹原　克	加藤 隆弘	後藤 敏明
附属高等学校同窓会	若林 勝司	三宅 捷夫	佐藤　勝
専門学校同窓会	山本　清	酒井 史生	阿部　洵

◆ 法人理事（H20.4.1～H23.3.31）　高田　貢（S37年大学電気卒）　長嶋 秀世（S39年大学電気卒）

◆ 法人評議員会議長（H20.4.1～H23.3.31）　加藤 隆弘（S52年　大学建築卒）

■ 校友会相談役推戴者（定款施行細則第13条2項による）

片岡 国牟(応)　大谷 一夫(応)　西山 徹(応)　高木 雅行(建)　五十嵐 功(高)、酒井 史生(専)、阿部　洵(専)　　以上7名

「第63回評議員会・第52回総会」開催のお知らせ

1．日　時　平成20年5月25日（日）　13：30～
2．場　所　新宿キャンパス　3階　「アーバンテックホール」
3．議　案　第1号議案　平成19年度事業報告承認の件
　　第2号議案　平成19年度収支決算ならびに財産目録承認の件　監査報告
　　第3号議案　平成20年度事業計画（案）承認の件
　　第4号議案　平成20年度収支予算（案）承認の件
　　第5号議案　専門学校同窓会推薦の理事および理事入れ替え承認の件
　　第6号議案　青森全国大会収支決算に対する再監査実施権行使について賛否を問う件
　　第7号議案　校友会懲戒規程を制定する件

（注1）本誌同封封書により、折り返し出欠についてご回答下さい。封書は80円切手をお貼り下さい。
（注2）定款施行細則により、当該議事について意思表示のない場合は同意の意思があったと見なして出席者に加えることが出来ることになっておりますのでこの点予めご了承下さい。
（注3）総会・評議員会で意見のある方は事前に事務局までFAX03-3342-2035にてご意見をお寄せ下さい。

「総会当日のプログラム」

◆　評議員会・総会
受　付　●13：00～
開　会　●13：30
議　事　●14：00～

◆　学園近況報告・表彰式等
学園近況報告　●16：15～
学生・生徒の表彰状贈呈　●16：30～

◆　講　演　会
記念講演　●　16：45～17：45

演　　題　●「ルイ・ヴィトンの法則
　　―最強のブランド戦略

講 演 者　●　長沢　伸也　氏
早稲田大学大学院理工学研究科前期博士課程修了
現在、早稲田大学ビジネススクール専攻
（大学院商学研究科ビジネス専攻）
MOT専修教授
なお、講演会終了後中層棟7階食堂にて17：50から懇親会を開催いたします。

学生・生徒の表彰報告（平成19年度総会において）

大学院	専攻	氏名
	機械工学専攻2年	平野　貴志
	化学応用学専攻2年	二ノ宮純一
	電気・電子工学専攻1年	宇田　英世
	情報学専攻1年	藤田紗耶佳
	建築学専攻2年	金子　樹

大　学	専攻	氏名
第一部	機械工学科2年	蔦木　貴哉
第一部	機械システム工学科2年	石山　広希
第一部	機械システム工学科2年	馬場　祥悟
第一部	機械創造工学科2年	伊藤　巧
第一部	応用化学科2年	黒田　朗弘
第一部	環境化学工学科2年	新井　宏志
第二部	マテリアル科学科2年	宮沢　宜樹
第一部	電気工学科3年	五十嵐和夫
第一部	情報通信工学科2年	山田　翔太
第一部	情報工学科4年	叶賀佳織里
第一部	情報デザイン学科2年	金子　篤彦
第一部	建築学科建築学コー2年	長谷川　翔
第一部	建築学科環境建築コー2年	日下部有香
第一部	建築都市デザイン学科2年	神保　隆文
第二部	建築学科2年	鍋内　翔太

附属高等学校	学年	氏名
	3年	森下　暁央
	3年	増渕　義人
	2年	後藤　幸久

附属中学校	学年	氏名
	3年	奈良　麻結
	2年	大隈　朱莉

第5号議案　理事の承認の件

- **専門学校同窓会からの推薦理事**

  西原 康二（1955年卒）梶野 和己（1958年卒）佐久間 惣喜（1961年卒）
  佐藤 敏勝（1962年卒）岡村　大（1963年卒）中島 孝明（1965年卒）
  渡辺 征三（1968年卒）坂口 教子（1995年卒）

- **理事の入れ替え**

  田中 英生（1965年卒）　⇐　杉山 助一氏の死亡による入れ替え

- **評議員の入れ替え**

  小倉 昭夫（1954年卒）　⇐　杉山 助一氏の死亡による入れ替え

第６号議案　青森全国大会の収支決算に対する再監査実施権行使について賛否を問う件

平成15年11月11日付け校友会中間監査報告で「全国大会（青森大会）についてはこの事業だけの科目を設け、全体の使途明細が把握出来るように運営することを要望する」との意見が出されており、また平成18年度開催の第61回評議員会及び50回総会において監事会より「青森全国大会の収支決算の詳細の公表」との意見が付加されている。これに基づき財務部を始め関係部門による対応を図ったが青森県支部の協力が得られず処理できなかった。引き続き，第三者の判断を仰ぐため八戸簡易裁判所に於いて民事調停による解決を試みたが、これも青森側当事者の出頭拒否により調停は不調に終わった。更に平成19年7月に開催された理事会の決定により「青森問題特別委員会」を設置し、内部自浄力による解決を期待し話し合いを進めてきたが，使途明細は明らかにならなかった。しかしながら校友会としては監事会の意見を受け処理しなければならない事案であるため、監事または公認会計士等の監査権行使による青森全国大会の収支決算に対する再監査の是非について総会に諮る。

第７号議案　校友会懲戒規程を制定する件

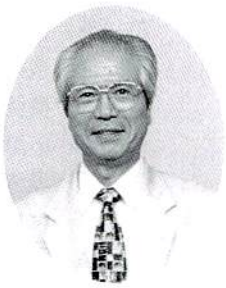
校友会の活動を常に正常に維持していくためには誤った行動を抑止する対策が必要不可欠である。近年、コンプライアンス重視の時代を迎え、校友会活動に於いて不祥事を未然に防ぐための何等かの対策が必要であり、法令順守の運営や活動を図るため懲戒規程を制定することについて総会に諮る。

訃　報

次の方々がご逝去されました。ご生前のご活躍をしのび謹んでご冥福をお祈りいたします。

名誉教授	宮島　堯氏（平成19年７月14日）
前理事長	北郷　薫氏（平成19年８月３日）※32ページ参照
環境化学工学科教授	定方正毅氏（平成19年９月25日）
名誉教授	藤島昌平氏（平成19年10月23日）
校友会理事	杉山助一氏（平成20年３月10日）

杉山助一氏（昭和31年機械工学科卒）



昨年４月から喉頭癌のため入退院を繰り返しておりましたが、本年３月10日午後９時10分ご逝去され、帰らぬ人となりました（享年76歳）。杉山さんは校友会の副会長を二期、理事を四期務められ、フットワークのよさで多くの人に親しまれ、また、大変に学園思いの方でもありました。在りし日の姿を思い起こしながらご冥福をお祈りいたします。なお、葬儀は家族葬により３月12日に執り行われました。

■第１号議案平成19年度事業報告（案）

平成19年度において下記の通りの事業活動を行いました。

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設に関する助成	１．学園援助費寄付
（定款第５条第１項）	
学校に在学する学生・生徒の学習活動および	１．学生・生徒の研修援助
就職活動ならびに教職員の調査研究の助成	①優秀学生の表彰
（定款第５条第２項）	②学生の研修活動に対する援助・支援
会誌および学術図書の刊行	１．校友会報128号の発行（65,500部）
（定款第５条第３項）	２．会員名簿の更新・ラベルの発行
学術に関する講演会および見学会等の開催	１．学術講演会開催（総会開催時）
（定款第５条第４項）	２．OBの活動発表会（新年祝賀会開催時）
	３．各支部単位での見学会の適宜開催
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図る	１．新年祝賀会・懇親会の開催
に必要なる施設の設置	２．総会後の懇親会の開催
（定款第５条第５項）	３．各支部の支援および支部組織の活性化
	４．各種同好会活動の支援
	５．各支部総会・懇親会の開催（40支部702名）
	６．沖縄全国大会開催の準備
	７．第７回ホームカミングデー開催の後援
	８．学園が行なう社会活動への援助・支援
	９．学園支援へ向けた活動の実施
学校の行う就職の斡旋および紹介に関する援助	１．就職の支援
（定款第５条第６項）	２．大学後援会との懇談会開催

■第３号議案平成20年度事業計画（案）

平成20年度において下記の通りの事業活動を行います。

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設に関する助成	１．学園援助費寄付
（定款第５条第１項）	
学校に在学する学生・生徒の学習活動および	１．学生・生徒の研修援助
就職活動ならびに教職員の調査研究の助成	①優秀学生の表彰
（定款第５条第２項）	②学生の研修活動に対する援助・支援
会誌および学術図書の刊行	１．校友会報129号の発行
（定款第５条第３項）	２．会員名簿の更新・住所ラベル等の発行
学術に関する講演会および見学会等の開催	１．学術講演会開催（総会開催時）
（定款第５条第４項）	２．OBの活動発表会開催（新年祝賀会開催時）
	３．各支部単位での見学会の適宜開催
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図る	１．新年祝賀会・懇親会の開催
に必要なる施設の設置	２．総会後の懇親会の開催
（定款第５条第５項）	３．各支部の支援および支部組織の活性化
	４．各種同好会活動の支援
	５．各支部総会・懇親会の開催
	６．学園支援へ向けた活動の実施
	７．第８回ホームカミングデー開催への積極的な後援
	８．第16回校友会全国大会（沖縄大会）開催
	９．学園が行なう社会活動への援助・支援
学校が行う就職の斡旋および紹介に関する援助	１．就職の支援
（定款第５条第６項）	２．後援会との連携強化
その他目的を達成するために必要な事業	１．学園創立125周年記念行事への積極的支援
（定款第５条第７項）	

■第２号議案平成19年度　収支計算書

2007年4月1日から2008年3月31日まで

（単位：円　△印は予算超過金額）

科　目	予算額	決算額	差　異
【収入の部】			
基本財産運用収入	**60,000**	**120,000**	**△60,000**
基本財産利息収入	60,000	120,000	△60,000
会費収入	**34,273,000**	**33,709,000**	**564,000**
会費収入	34,273,000	33,709,000	564,000
協力会費収入	**3,000,000**	**2,711,000**	**289,000**
協力会費収入	3,000,000	2,711,000	289,000
寄付金収入	**200,000**	**220,000**	**△830,000**
寄付金収入	200,000	220,000	△20,000
雑収入	**300,000**	**1,584,060**	**△1,284,060**
受取利息・配当	100,000	423,970	△323,970
雑収入	200,000	1,160,090	△960,090
当期収入合計(A)	37,833,000	38,344,060	△511,060
前期繰越収支差額	13,000,000	13,071,602	△71,602
収入合計(B)	50,833,000	51,415,662	△582,662
【支出の部】			
事業費	**23,963,000**	**22,273,789**	**1,689,211**
学園援助費	2,500,000	2,014,489	485,511
学生生徒活動援助費	2,500,000	2,400,000	100,000
学生生徒奨励金	1,190,000	1,213,000	△23,000
学園連携活動費	800,000	94,080	705,920
会報印刷費	3,218,000	2,737,500	480,500
発送作業費	480,000	746,522	△266,522
郵送費	3,800,000	3,846,330	△46,330
印刷費	1,680,000	1,741,960	△61,960
協力会費割戻金	900,000	840,700	59,300
支部出張費	1,275,000	1,169,890	105,110
支部総会会費	150,000	139,000	11,000
後援会連携対策費	100,000	0	100,000
給与手当	3,820,000	3,890,988	△70,988
福利厚生費	150,000	115,366	34,634
全国大会費	1,000,000	1,000,000	0
校友ネットワーク構築費	300,000	296,385	3,615
消耗雑費	100,000	27,579	72,421
管理費	**15,542,000**	**13,806,847**	**1,735,153**
総会費	1,500,000	1,034,492	465,508
本部会議費	1,630,000	1,621,342	8,658
その他会議費	2,528,000	2,156,765	371,235
給与手当	5,200,000	5,151,355	48,645
福利厚生費	650,000	668,165	△18,165
旅費・交通費	50,000	20,880	29,120
通信費	1,274,000	918,190	355,810
振替手数料	100,000	91,225	8,775
事務用品費	660,000	513,350	146,650
消耗品費	40,000	0	40,000
印刷製本費	80,000	37,975	42,025
修繕費	60,000	5,700	54,300
賃借費	250,000	278,460	△28,460
対外費	1,000,000	1,083,157	△83,157
慶弔費	300,000	65,750	234,250
公租公課	70,000	65,470	4,530
雑費	150,000	94,571	55,429
固定資産支出	**370,000**	**22,800**	**347,200**
資産取得支出	370,000	22,800	347,200
予備費	**1,000,000**	----------	**1,000,000**
当期支出合計(C)	40,875,000	36,103,436	4,771,564
当期収支差額(A)－(C)	△3,042,000	2,240,624	△5,282,624
次期繰越収支差額(B)－(C)	9,958,000	15,312,226	△5,354,226

■第４号議案平成20年度　収支予算書（案）

平成20年４月１日～平成21年３月31日

（単位：千円）

科　目	予算額	前年度予算額	増　減
【収入の部】			
基本財産利息収入	60	60	0
会費収入（6同窓会）	28,931	34,273	△5,342
協力会費収入	5,000	3,000	2,000
寄付金収入	200	200	0
雑収入	1,200	300	900
学園援助基金取崩収入	6,000	0	6,000
当期収入合計	41,391	37,833	3,558
前期繰越収支差額	15,312	13,000	2,312
収入合計	56,703	50,833	5,870
【支出の部】			
事業費	**24,805**	**23,963**	**842**
学園援助費	2,500	2,500	0
学生活動援助費	2,500	2,500	0
学生生徒奨励金	1,215	1,190	25
学園連携活動費	500	800	△300
会報・出版費	8,120	7,498	622
会報印刷費・取材費	3,850	3,218	632
発送作業費	470	480	△10
郵送費	3,800	3,800	0
印刷費	1,290	1,680	△390
支部関係費	2,810	2,425	385
協力会費割戻金	810	900	△90
支部対策費	1,275	1,275	0
支部総会会費	150	150	0
後援会連携対策費	200	100	100
支部関係雑費	375	0	375
人件費	3,970	3,970	0
給与手当	3,820	3,820	0
福利厚生費	150	150	0
全国大会費	1,500	1,000	500
校友ネットワーク構築費	300	300	0
消耗雑費	100	100	0
管理費	**15,750**	**15,542**	**208**
総会費	1,500	1,500	0
本部会議費	1,636	1,630	6
その他会議費	2,600	2,528	72
人件費	5,850	5,850	0
給与手当	5,200	5,200	0
福利厚生費	650	650	0
旅費交通費	50	50	0
通信費	1,274	1,274	0
振替手数料	150	100	50
事務用品費	660	660	0
消耗備品費	40	40	0
印刷・製本費	80	80	0
修繕費	60	60	0
賃借費	250	250	0
対外費	1,100	1,000	100
慶弔費	300	300	0
公租公課	50	70	△20
雑費	150	150	0
固定資産取得支出	**0**	**370**	**△370**
資産取得支出	0	370	△370
予備費	**836**	**1,000**	**△164**
当期支出合計	41,391	40,875	516
当期収支差額	0	△3,042	3,042

（差異の△印は前年度より減を示す）

■20年度支部総会開催予定表

2008.3.31現在

開催日時	支部名称	開催場所
4月19日（土）11：30	横浜支部	山水亭
〃	川崎支部	〃
〃	湘南支部	〃
〃	西湘支部	〃
〃	相模支部	〃
5月11日（日）	山口県支部	宇部地区
5月17日（土）11：00	愛知県支部	比翼
5月17日（土）11：00	三重県支部	プラザ洞津
5月18日（日）14：00	栃木県支部	ホテルニューイタヤ
5月23日（金）18：30	鹿児島県支部	パレスイン鹿児島
5月24日（土）15：00	岩手県支部	盛岡市繋字塗沢40－4
6月13：00	広島県支部	ウェルサンピア福山
6月7日（土）13：00	西東京支部	八王子クリエイトホール
6月8日（日）13：30	埼玉県中央支部	新都心ビジネス交流プラザ4階
6月14日（土）11：00	島根県支部	ホテル白鳥
6月15日（日）16：00	埼玉県西支部	川越プリンスホテル
6月15日（日）13：00	体育会連合OB会	工学院大学　28F
6月15日（日）	千葉県支部	千葉県内
6月20日（金）18：30	山梨県支部	ベルクラシック甲府
6月22日（日）15：00	石川県支部	金沢兼六荘(日本私立学校共済宿泊所)
6月28日（土）18：00	高知県支部	早川「季節料理」
6月28日（土）15：00	新宿支部	工学院大学　28F
6月28日（土）15：00	中野支部	工学院大学　28F
9月27日（土）13：00	佐賀県支部	未定
10月11日（土）	全国支部長会	沖縄県那覇市
10月11日（土）	宮城県支部	全国大会に合わせ沖縄那覇市
10月11日（土）15：30	福島県支部	全国大会に合わせ沖縄那覇市
10月26日（日）13：00	東京支部	工学院大学　28F
10月末	青森県支部	未定（青森県下北地区）
11月1日（土）13：20	新潟県支部	響香
11月8日（土）18：00	大分県支部	別府つるみ荘
11月21日（金）18：30	沖縄県支部	未定（沖縄県那覇市）
11月23日（日）18：30	長野県支部	東急イン
11月29日（土）18：00	京滋支部	きよみず

■平成19年度貸借対照表

2008.3.31現在
（単位：円）

資産の部	金　額	負債及び正味財産の部	金　額
1.流動資産	1,331,472	1.流動負債	72,207,684
2.固定資産	245,920,806	2.固定負債	1,952,600
		3.正味財産	173,091,994
		（うち基本金）	(20,000,000)
合　計	247,252,278	合　計	247,252,278

■平成19年度財産目録

2008.3.31現在
（単位：円）

資産の部	金　額	負債及び正味財産の部	金　額
流動資産	1,331,472	負債	
1.現金預貯金	1,331,472	1.一般預り金	262,684
		2.在学生会費預り金	71,945,000
		3.退職給与引当金	1,952,600
固定資産	245,920,806	正味財産	173,091,994
1.基本財産引当預金	20,000,000	（うち基本金）	(20,000,000)
2.什器備品	765,406		
3.電話加入権	102,8,00		
4.長期預金	225,052,600		
合　計	247,252,278	合　計	247,252,278

三和シヤッターグループは、「安全」「安心」「快適」を提供することにより、社会に貢献いたします

既存の家にも、新築の家にも
簡単に取付できます

ホームエレベーター 「気分乗々」

低価格　製品代は９８０，０００円（税抜き）から

ｺﾝﾊﾟｸﾄ　畳半畳分のスペースがあれば設置可能

簡単施工　エレベーター設置工事は２日間

問合せ先：0120－0909－30（ホームエレベーター営業部）

三和シヤッター工業株式会社

〒175－0081　東京都板橋区新河岸2－3－5

顧問　渡辺静雄（電気工学科：昭和39年卒：空手道部OB）

ホームページ//www.sanwa-ss.co.jp

知的財産ビジネス支援の専門職集団

太陽国際特許事務所

所長・弁理士・博士（工学）　中島　淳　（S44機械卒・H14大学院電気電子卒）

機械建築担当弁理士	福田浩志（副所長）		清武史郎*	堀江千鶴*	坂手英博*
	針間一成	永田淳一	鈴木悦郎	高橋尚子*	河野元浩*
	内田英男	中村　明	江口和敬	御橋優子	上野敏範
電気電子担当弁理士	加藤和詳（副所長）		百瀬尚幸	美濃好美*	山本隆雄*
	佐久間顕治*	山元俊仁	末長正義	小早川千佳子	山口真紀
	大古奈奈	鈴木沙緒里			
化学材料担当弁理士	西元勝一（副所長）		花岡明子	並川啓志*	都野真哉*
	上條由紀子*	下田世津子*	小林美貴*	設楽修一	村澤　彰
	西山　崇*	早瀬貴介	長野みか	前嶋恒夫	小谷純子
	水谷泰嗣	滝沢喜夫			
バイオ医薬担当弁理士	山中裕子*	醍醐美知子	山極美穂	膝舘祥治	赤羽桃子
商標法律担当弁理士	関島昌子*	樋熊美智子*	高橋史保		
米国特許弁護士	シェルダン モス		マーガレット バーク		
中国弁理士	董　昭				
韓国弁理士	金　晙河				

*特定侵害訴訟代理業務付記

東京本部：東京都新宿区新宿4丁目3番17号　ダヴィンチ新宿8階　〒160-0022
電話（03）3357－5171（代表）　ファクシミリ（03）3357－5180（代表）
http://www.taiyo-nk.co.jp　相談・連絡用E-mail:info@taiyo-nk.co.jp
USオフィス：米国バージニア州　神奈川オフィス：神奈川県小田原市

皆様の実験を支えるパートナー

試薬・工業薬品・高純度試薬
理化学器具・機械・各測定器
・ガラス・樹脂の加工品など

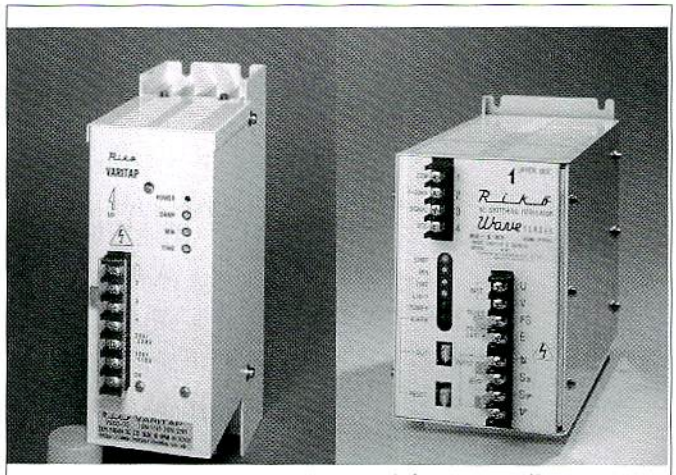
ISO14001:2004／JIS Q 14001:2004
EMS 523709

大成化学株式会社

本　社：〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-6
TEL 03（3252）3336、FAX 03（3252）2829
E-mail :taisei-k@giga.ocn.ne.jp

埼玉営業所：〒350-1333 埼玉県狭山市上奥富 316
TEL 042 (955) 1637 、FAX 042 (955) 1638
E-mail :taisei-k@eagle.ocn.ne.jp

栃木営業所：〒321-3425
栃木県芳賀郡市貝町多田羅字西原 1345
TEL0285（68）4848、FAX0285（68）4847
E-mail :t.taiseikagaku@tuba.ocn.ne.jp



サイリスタ式電力調整器
バリタップシリーズ

交流スイッチング電源
ウェーブシリーズ

温度・照明・回転・電圧安定の精密制御に

電源システムをクリエイトする
株式会社 東京理工舎
代表取締役社長　岡崎孝宣　１９７４年 機械工学科卒
〒338-0823　埼玉県さいたま市桜区栄和１－４－３０
TEL：048-856-3851（大代表）　FAX：048-856-3861
http://www.tokyorikosha.co.jp
ISO 9001/14001 認証取得（浦和事業所・大阪営業所）

ISO9001　ISO14001

電気設備　設計施工

makino　電力制御機器装置　設計施工

太陽光発電システム・オール電化設備
設計施工

牧野電設工業株式会社

代表取締役　牧野光洋（1979 年 専門学校電気科卒）

本　社　〒166-0013
東京都杉並区堀ノ内 3-25-5
ＴＥＬ 03-3313-2511（代）
ＦＡＸ 03-3313-2509

甲府営業所　〒409-3864
山梨県中巨摩郡昭和町押越 1519-3
ＴＥＬ 055-268-6016
ＦＡＸ 055-275-4015

TAKE国際技術士研究所

代表　黒澤 兵夫

（技術士　総合技術監理・情報工学）
（工学院大学技術士会副会長）
（1965 年・電気工学科電子工学コース卒）

E-Mail:kurosawa@peach.ocn.ne.jp

SGK 三晃技研工業株式会社

私達はハイテクノロジーの心臓部をになう技術者集団です。

- プリント配線板の（関連資機材の販売・検査サービス・検査治具製造
  穴あけ加工・ルーター加工・関連遊休設備販売）
- 超硬ドリルビットの販売
- 超硬ドリルビットの再研磨加工
- 各種省力化機器の開発/製造など

きめ細かな機動力で業界の発展に貢献します

1977年創立・資本金4500万円・代表取締役：阿久津　健三（1971年・電気工学科卒）
本　　社　：　〒550-0014 大阪市西区北堀江 1-3-2(Being 四ツ橋ビル 8F)
℡06-6531-2127、FAX06-6534-1660、E - mail : osaka@sgk-sanko.co.jp
東京営業所　：　千代田区(℡03-5297-3315)、大阪工場：東大阪市（℡0729-60-7301）
高槻ワークス：　大阪府高槻市（℡0726-87-8861）
主要取引先　：株式会社住友金属エレクトロデバイス、エルナー株式会社、
協栄産業株式会社、京セラ SLC テクノロジー株式会社、
田中貴金属工業株式会社、パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社など

工学院大学　会工会

代表幹事　鈴木良一

会工建 S38年卒　工大建 S44卒
Email　c88n54@bma.biglobe.ne.jp

溝上技術士事務所 代表（化学部門）
NPO　山口県アクティブシニア協会　相談役
工学院大学校友会山口県支部　支部長

溝　上　俊　治（1954年工業化学科卒）
Mizoue　Toshiharu

〒745-0877
山口県周南市大字徳山1007-14
TEL＆FAX　0834-21-8421　携帯 080-1926-8672
e-mail tk-mizoue@dance.ocn.ne.jp

朝日カルチャーセンターと提携

「工学院大学・朝日カレッジ」
開講しました。

ビジネスマンを対象とした講座やサブカルチャー系、理工系など、現在の朝日カルチャーと重複しない講座群を中心に、4月開講。受講はどなたでも可能です。教室は工学院大学新宿キャンパス中層棟4階です。

工学院大学エクステンションセンター
☎　03-3340-0946　Fax　03-3342-3150
E-Mail:extcenter@sc.kogakuin.ac.jp
http://www.kogakuin.ac.jp/index.html

何を基準に住宅ローンを選びますか？
まさか金利だけで選ぼうと、していませんか？

意外と見落としがちなのは、
完済するまでの総支払い金額
金利だけでは見えませんが、大きな差があります。
繰上返済したいとき、
手数料が掛かる場合があることをご存知ですか？
すぐに決めてしまう前に、
弊社、又は
住宅金融支援機構（旧住宅金融公庫）ホームページ等で、
「総支払額」を確認してみませんか？

卒業生お客様の声

―田中栄作さん―
（建築学科山下研1978年卒）

校友の皆さんにあっては、益々ご活躍の事と思います。
この度、自宅の新築にあたって、弊優良住宅ローンには大変お世話になりました。ポイントとして、まず何よりも、役員の方々が同窓であり、親しみやすさがあげられると思います。御相談致しましたら、つなぎ融資から本融資まで丁寧に説明下さり、融資を受けることが出来ました。金利固定のフラット35であり、一般都市銀行よりも金利を抑えているとの事で、さらに、優良住宅支援制度を使うと、当初5年間は金利優遇があるというのも大変助かります。
住宅ローンを考えて居られる方は、一度検討なさっては如何でしょう。

住宅取得は一生で一番大きい買物です。住宅ローンは何処で借りても住宅の品質には変りありません。住宅ローンは、主に金利・手数料・保証料等で構成されています。

お気軽にご相談ください。

株式会社 優良住宅ローン

東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル20階　〒160-0023
TEL:03-5339-8966 FAX:03-5339-8967
http://www.yuryoloan.jp

営業時間　月～金 9:00～19:00　土 9:00～18:00

代表取締役社長
田野邉幸裕
（建築学科1969年卒業）

企画・広報部からのお知らせ

■校友会のホームページ

校友会に関する各種情報は、下記のホームページをご覧下さい。
http://www.kogakuin.or.jp/koyukai/koho
平成20年６月～21年５月　ユーザー名：　　パスワード：

■平成21年度本会誌（Vol. 130）の広告募集

社団法人工学院大学校友会から年１回発行「校友会報」誌に掲載する広告を以下の要綱により募集します。

1．対　　象：本学園卒業者（校友会会員）の所属する団体、組織、事業所及び本学園関係会社
2．価　　格：Ａ４サイズ。カラー表紙裏（表２・表３）16万円、他１頁12万円、１/２頁６万円、
　　モノクロ１頁10万円、１/２頁５万円
3．募集締切：2008年12月20日
4．掲　　載：校友会報Vol. 130に掲載
5．原稿送付先：校友会事務局あてに郵送、電子メール等。E-mail：jimul@kogakuin.or.jp
6．原稿形態：Word文書などの電子データを電子メールまたは郵送
7．問合せ先：事務局電話03-3342-2064、FAX03-3342-2035、E-mail：jimul@kogakuin.or.jp
　　（03-3340-2575　田村：E-mail:at66244@ns.kogakuin.ac.jp）
8．発行予定：2009年４月末日、発行部数：約65,000部、配布先全国校友会員・学内

■校友会会報の表紙デザイン　高橋宏精

略歴（プロフィール）
高橋　宏精（たかはし　こうせい）
1983年、熊本県生まれ、2007年九州産業大学工学部建築学科卒業、現在、工学院大学大学院工学研究科建築学専攻修士１年、初田研究室在籍。

この表紙のデザインに使われているのは、ある外国で見かけた「道しるべ」です。

表と裏の写真はまったく同じものを水平方向に反転して配置してあります。

“Future”の表側では、明るい色調と真っ白な背景などといった「可能性」や「挑戦」、「未来」というイメージが表されています。
“or Past?”の裏側には曇り空とグレースケールの色調といった、表とは対照的なイメージとなっています。しかし、これは単純な対比ではなく、背表紙の赤いライン、これをいま私たちがいる現在に見立て、これを介して、過去と未来は、表裏一体であるということを表現したものです。

私たちの現在は、常に過去によって支えられ、未来によって創られているということを忘れないことは、とても大事なことではないでしょうか。

■編集後記

今年から企画・広報部を、新たに担当することになりました。会長挨拶に紹介されていますように、従来『会報が来ると、封をあけるやいなやゴミ箱へ』ということもしばしば聞き、どうしても卒業生に読んで頂けるような内容にと、編集部一同取り組みました。
さて、ページをパラパラとめくってみて今年の校友会報は如何でしょうか。学園の歴史（120年）を意識し、印象的な編集をスタッフ一同心がけました。大学院生の斬新な表紙デザイン。卒業生の活躍する記事は、写真を大きく読みやすい誌面を目指しました。少しでも前向きな成果を感じて戴ければ幸いです。
校友会報の編集に際して、多くの卒業生・在校生・教職員をはじめ、広告出稿の企業の方々にもご協力戴きました。関係者の皆様、大変ありがとうございます。校友会報の誌面に関して、何かご意見がございましたら、下記のメールアドレス迄、是非ご連絡をお願い致します。　敬具

校友会 副会長/企画・広報部長　田野邉幸裕（建築）

副部長　太田正利（高校）
理　事　田村久義（機械）、都築登輝浩（応化）、吉川重克（応化）、名取勝敏（電気）、大場光博（建築）、岡安彰（高校）、佐藤敏勝（専門）

Tokyo Urban Tech　工学院大学　校友会報 Vol.129
●発行　社団法人　工学院大学校友会　会長　長嶋秀世　**●発行日**　2008年４月20日
●住所　163-8677　東京都新宿区西新宿1-24-2　電話　03-3342-2064、03-3340-1649
Fax　03-3342-2035　E-Mail:jimu1@kogakuin.or.jp　http://www.kogakuin.or.jp
●編集　校友会 企画・広報部　**●本文デザイン・印刷**　株式会社 建築資料研究社／日建学院デザインモール

くつろぎ、味わい、楽しむ。

ホテルのあたたかさ
感じてください。

京王プラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1
TEL.(03)3344-0111
http://www.keioplaza.co.jp/

JR・私鉄・地下鉄「新宿駅(西口)」「西新宿駅」より徒歩5分
都営大江戸線「都庁前駅」B1出口すぐ

美味しいお料理と多彩な会場。OB・OG会にもご利用いただけます。

同窓会
ならではの
3つの特典を
ご用意

同窓会・クラス会プラン

1 ご利用時間はゆったり2時間30分。
2 懐かしい写真や映像を。プロジェクター・スクリーン無料貸出。
3 乾杯用スパークリングワインをプレゼント。

◎着席／立食／着席ブッフェスタイル
◎お料理は5,000円より（フリードリンク付き）

hachioji ELLCY.co.jp
健康と、美味が私共の誇いです
八王子エルシィ

ご予約・ご相談
Tel.042-623-2111
Fax.042-624-7341
〈ホームページ〉http://www.hachiojiellcy.co.jp

国道16号と国道20号交差点、旧小杉会館

TOKYO URBAN TECH
工学院大学
社団法人 工学院大学校友会
http://www.kogakuin.or.jp